

2025年度 通常総会 会次第

1.開会の辞

2.理事長挨拶

3.定足数確認

4.議長選出

5.議事録作成者及び署名人の選任

6.議案審議

第1号議案 2024年度 活動報告の件

第2号議案 2024年度 決算報告書及び監査報告書承認の件

第3号議案 2025年度 事業計画書案承認の件

第4号議案 2025年度 予算書案承認の件

第5号議案 資産の総額の確認に関する件

第6号議案 役員選任

7.新利用決定委員選任の件

8.閉会の辞

正会員総数

48名

定足数

16名

出席者

10名

委任状

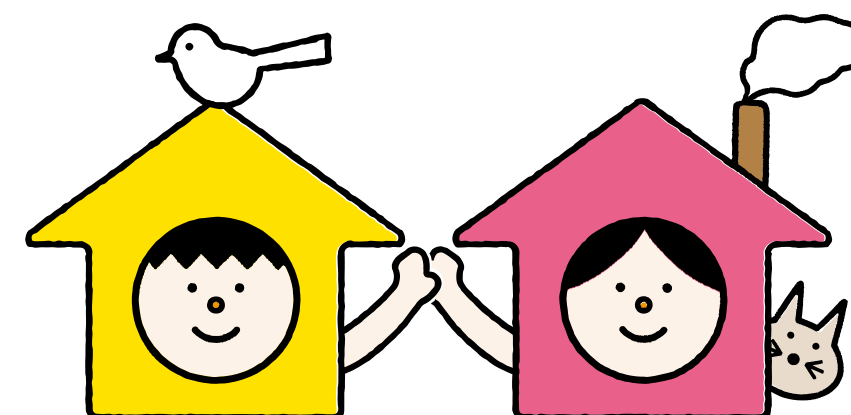
29名

個人正会員

1	假屋 智広	16	江之口 博行	31	西田 鉄心
2	坂口 松平	17	芝田 淳	32	元 佑也
3	町 かおり	18	山川 伯明	33	宇都宮 孝久
4	直井 圭介	19	上江川 直子	34	定岡 雅文
5	有馬 利洋	20	加藤 久佳	35	染河 敏幸
6	石黒 浩二	21	小林 浩隆	36	高木 幸一郎
7	廣野 千佳	22	立山 裕子	37	山田 一貴
8	山本 豪太	23	小松尾 ひで子	38	浜辺 恵里香
9	木下 精子	24	三角 悦久	39	田中 孝史
10	竹中 寛子	25	新川 昇一郎	40	須藤 奈津子
11	鶴 真一郎	26	溝延 祐樹	41	前木場 弘枝
12	上野 牧門	27	梅垣 晃一	42	小松 明子
13	山下泰彦	28	幾留 郁子		
14	天羽 浩一	29	河原 晶子		
15	鶴田 啓洋	30	廣野 拓		

団体正会員

1	社会福祉法人落穂会
2	司法書士法人中央ライズアクロス
3	医療法人慈和会大口病院
4	医療法人 名心会 吉野病院
5	株式会社マッシューズ
6	株式会社アパートナー鹿児島支店



住まいとつながりをすべての人に
NPO やどかりプラス⁺
法人

2024年度 活動報告

Activity Report 2024

June, 2025



NPO法人 やどかりプラス

理事長 芝田 淳 Jun Shibata

住まいとつながりをすべての人に やどかりプラスのとしての再出発。

2024年8月13日、居住支援法人であるやどかりサポート鹿児島と身寄り問題の解決に取り組んできたつながる鹿児島が合併し、NPO法人やどかりプラスが誕生しました。やどかりサポート鹿児島の設立から17年、我々は新たなスタートを切りました。

居住支援においては、改正住宅セーフティネット法の施行が今年の10月1日。

居住サポート住宅の誕生等、居住支援法人への期待が高まっています。

身寄り問題においては、国の検討会議において「新日自」という大きな方向性が示されました。いずれの施策の展開も今後のやどかりプラスの命運を左右するものであり、様々な新規事業の立ち上げが考えられます。

そうした環境の中、足元でも着実な変化が生まれています。

毎月理事会及び定例経営会議を開催し、理事のみなさまにも積極的に事業へ参画いただくようになりました。事務局においては「ガバナンス強化委員会」を設置し、基礎の基礎から事務局体制の再構築を図っています。

「当事者主体の居住支援」の象徴であるピアサポーターの活動も活発化し、8名の当事者が参画しています。事業と体制。いずれの発展・進展も欠かせない状況で、私も事務局員も息の抜けない日々が続きますが、当事者の方々とともに「住まいとつながりをすべての人に」提供できる社会を目指して進んでいきたいと思ひます。

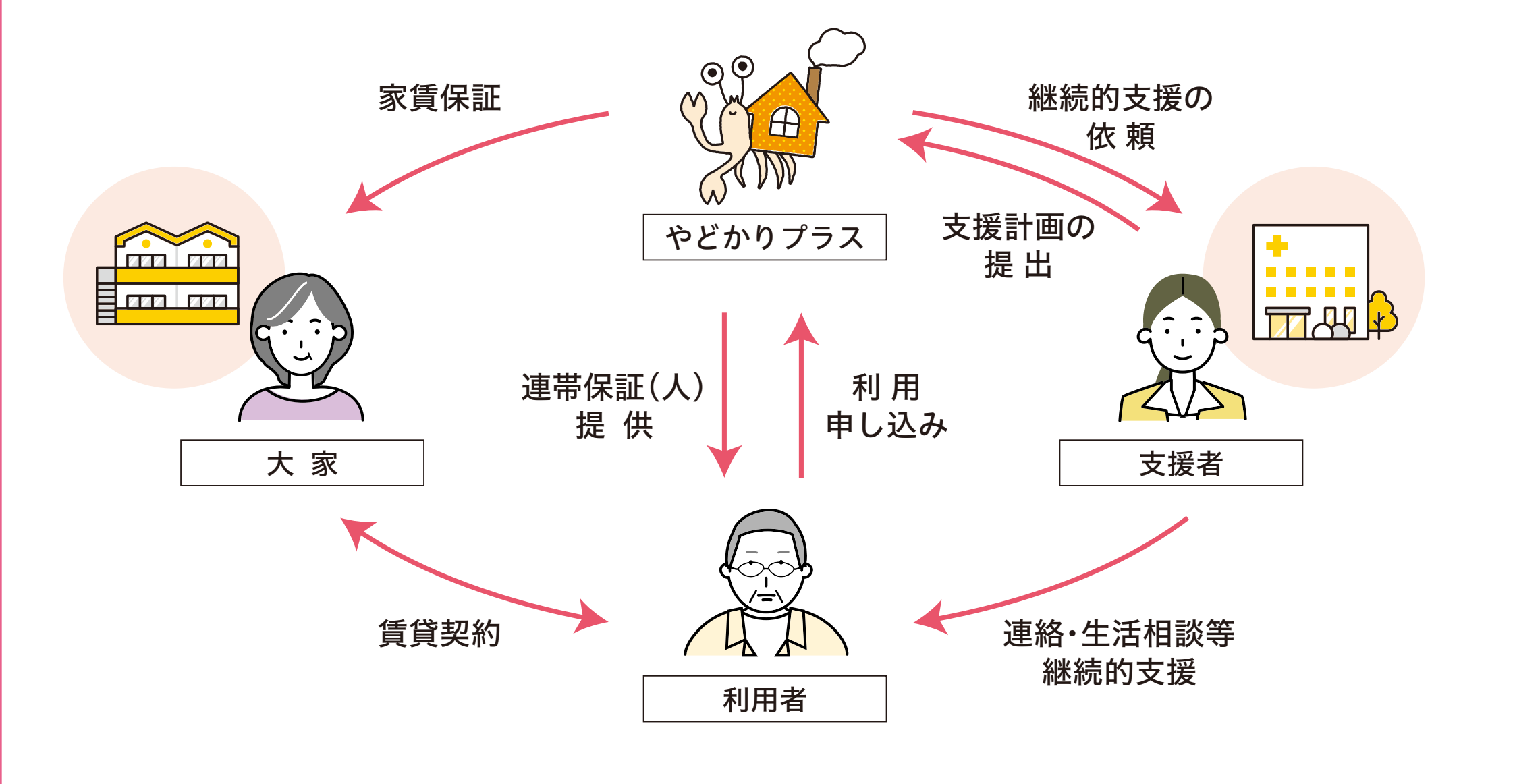
引き続きの応援を心よりお願い申し上げます。

01

地域ふくし連帯保証

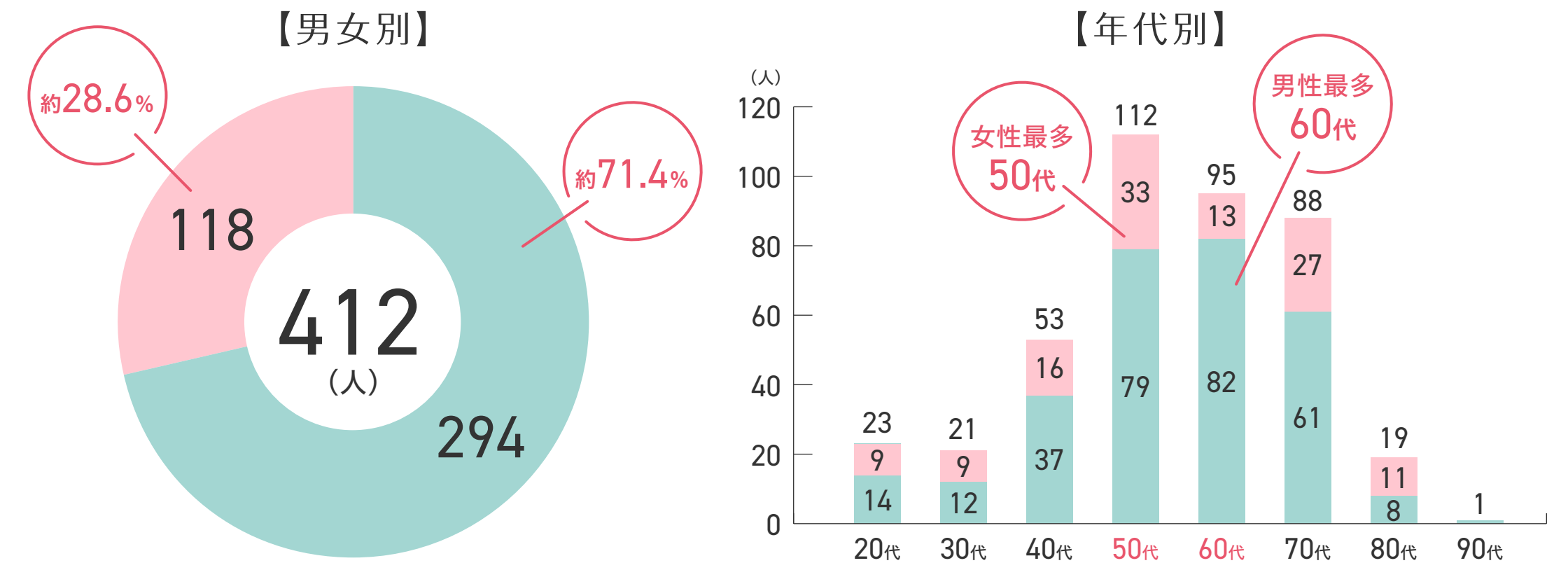


概要

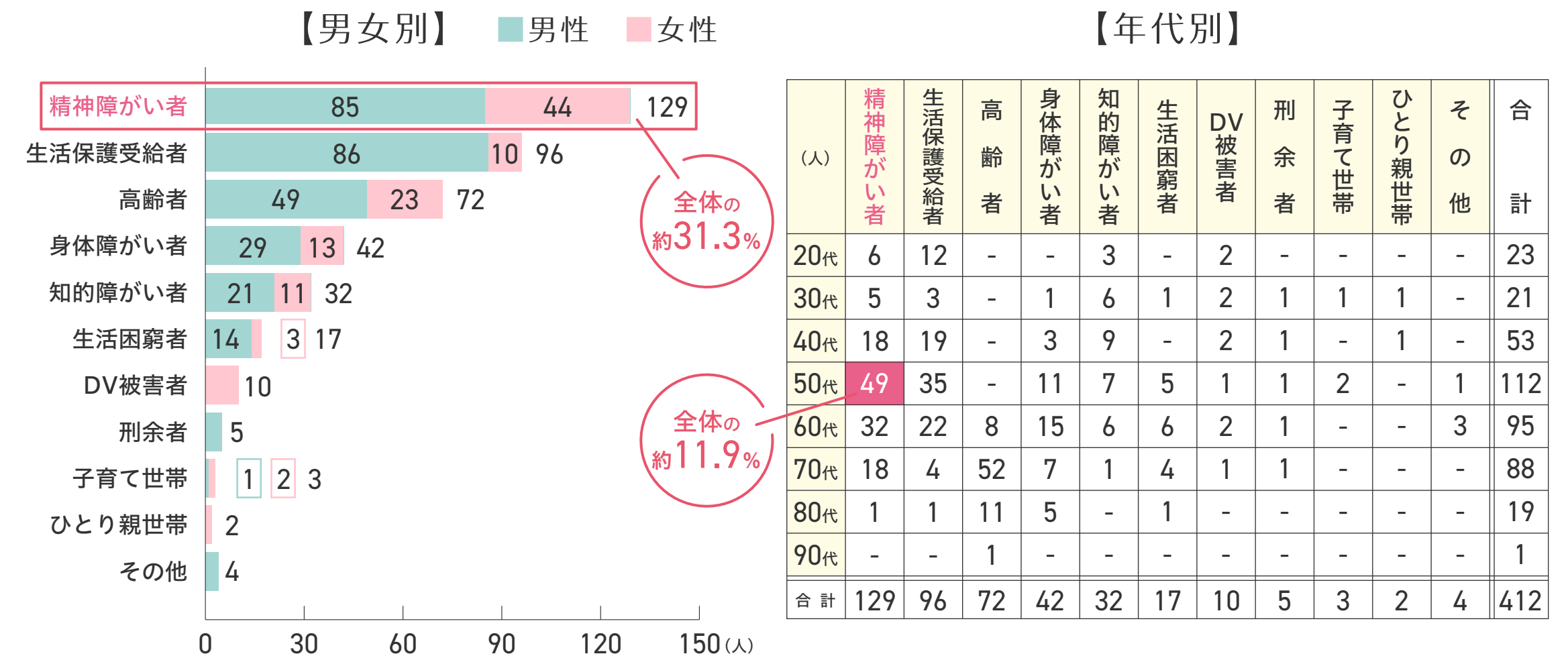


「地域ふくし連帯保証」はやどかりプラスの主要事業で、精神病院に長期入院している人たちが退院し地域で暮らせることを目的に始められました。連帯保証事業には家賃滞納や孤独死など様々な補償事故のリスクがありますが、訪問介護や病院など、利用者に定期的に接触する人に“支援者”になってもらう事で、利用者の状態を把握し、保証リスクを抑える仕組みです。現在は身寄りがなく居住困難に陥っている人たちの連帯保証も一定数引き受けています。

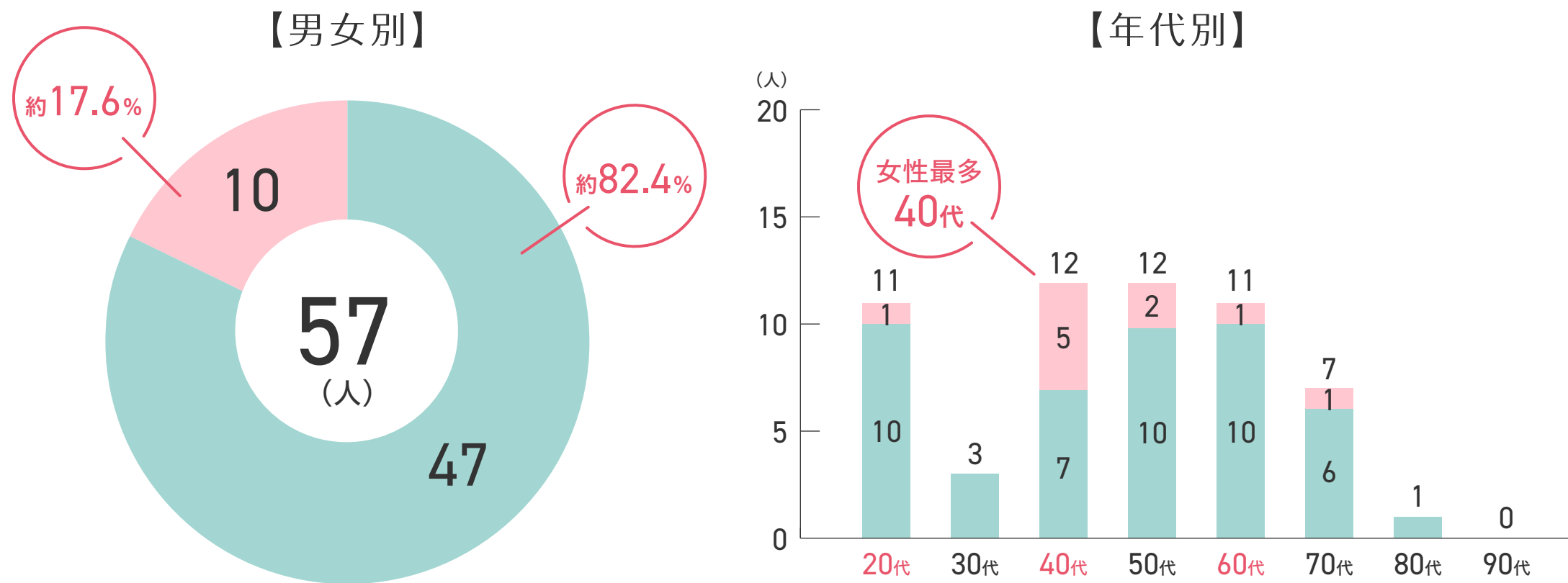
地域ふくし連帯保証 利用者数 ※2025年3月末時点



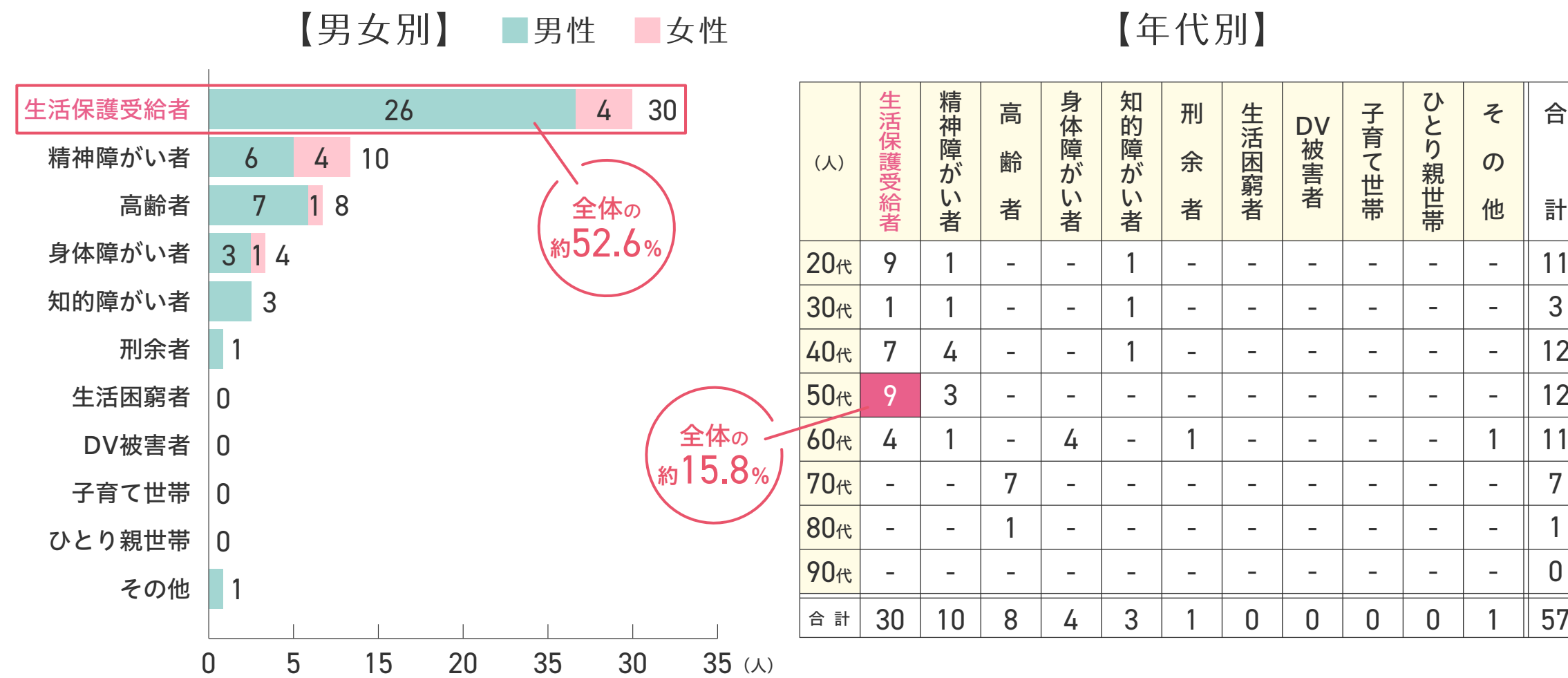
利用者の属性 ※2025年3月末時点



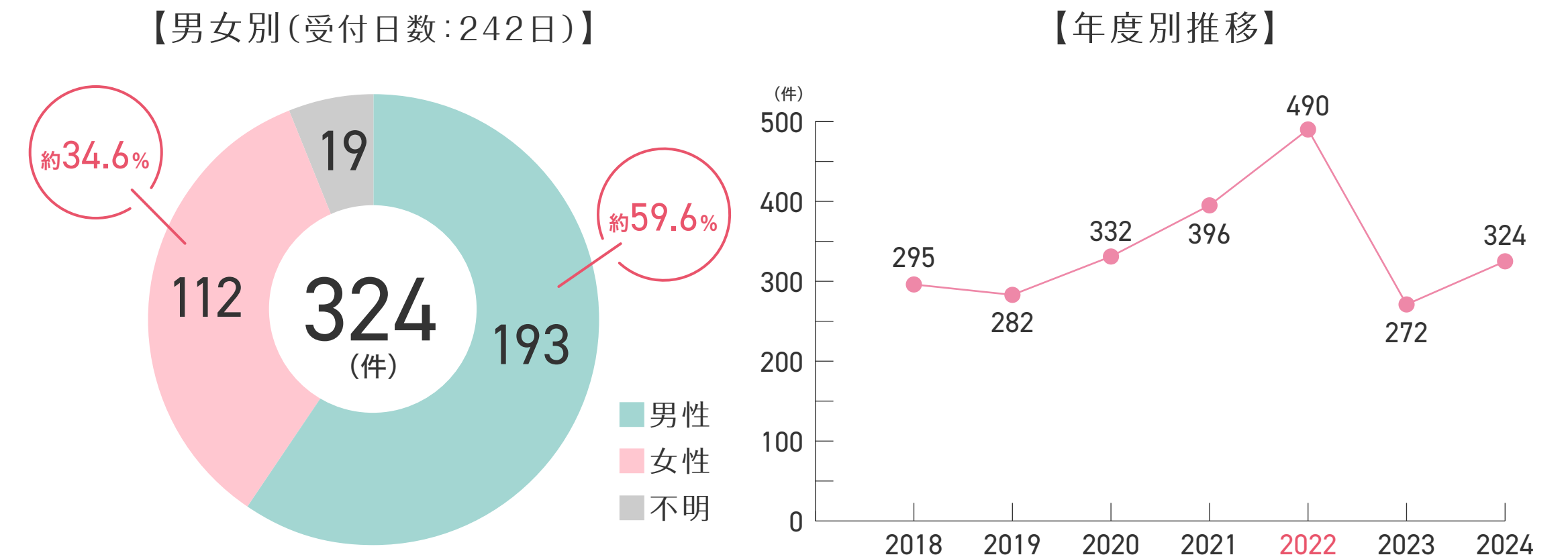
■新規利用者数 ※2025年3月末時点



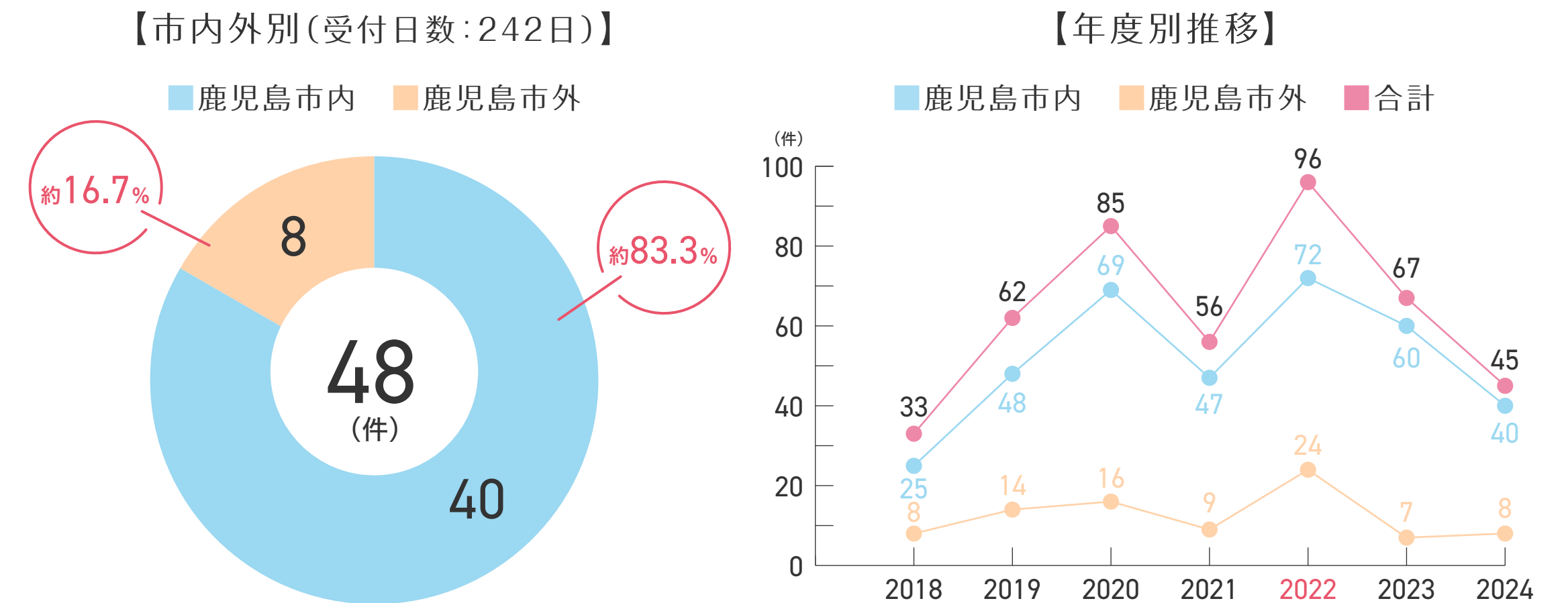
■新規利用者の属性 ※2025年3月末時点



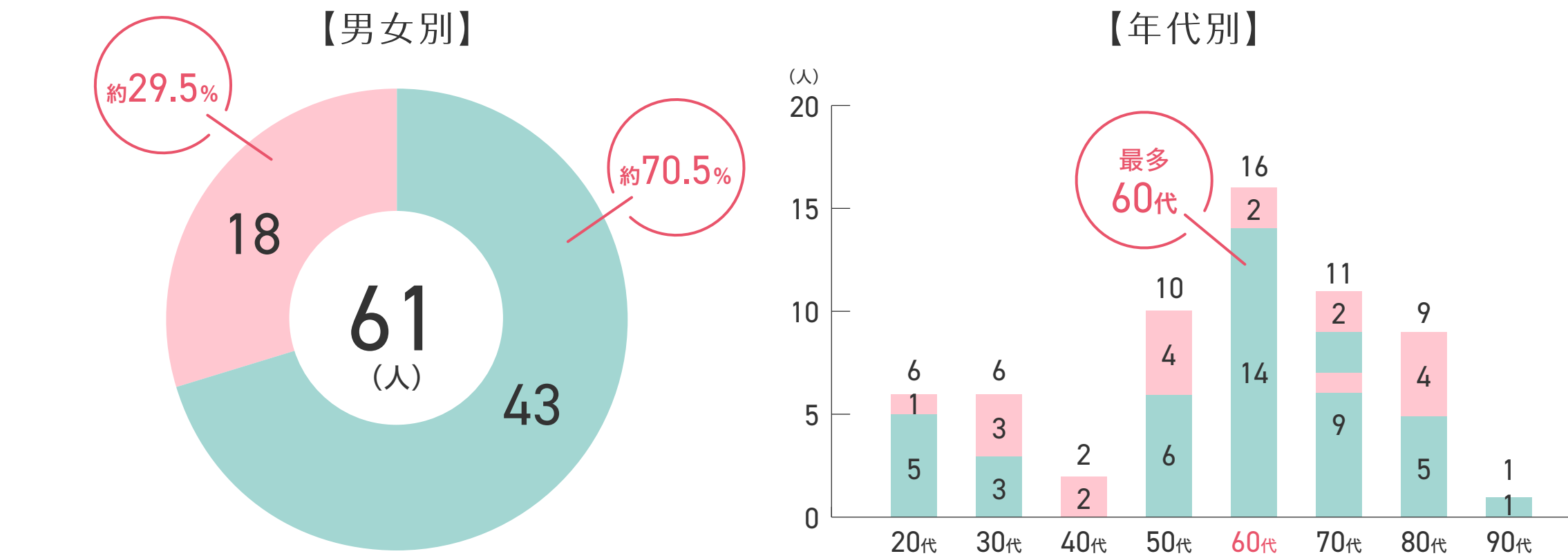
■相談実績 ※2025年3月末時点



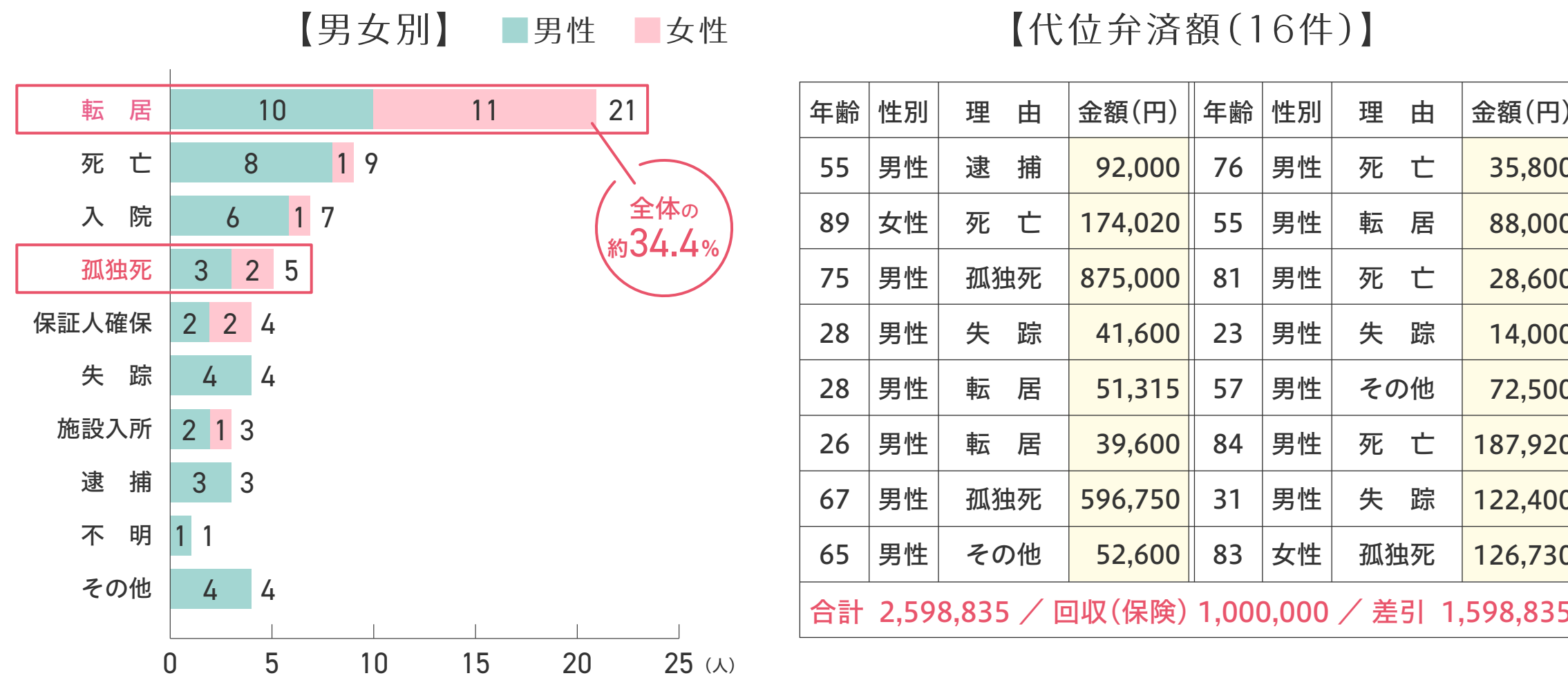
■住宅確保実績 ※2025年3月末時点



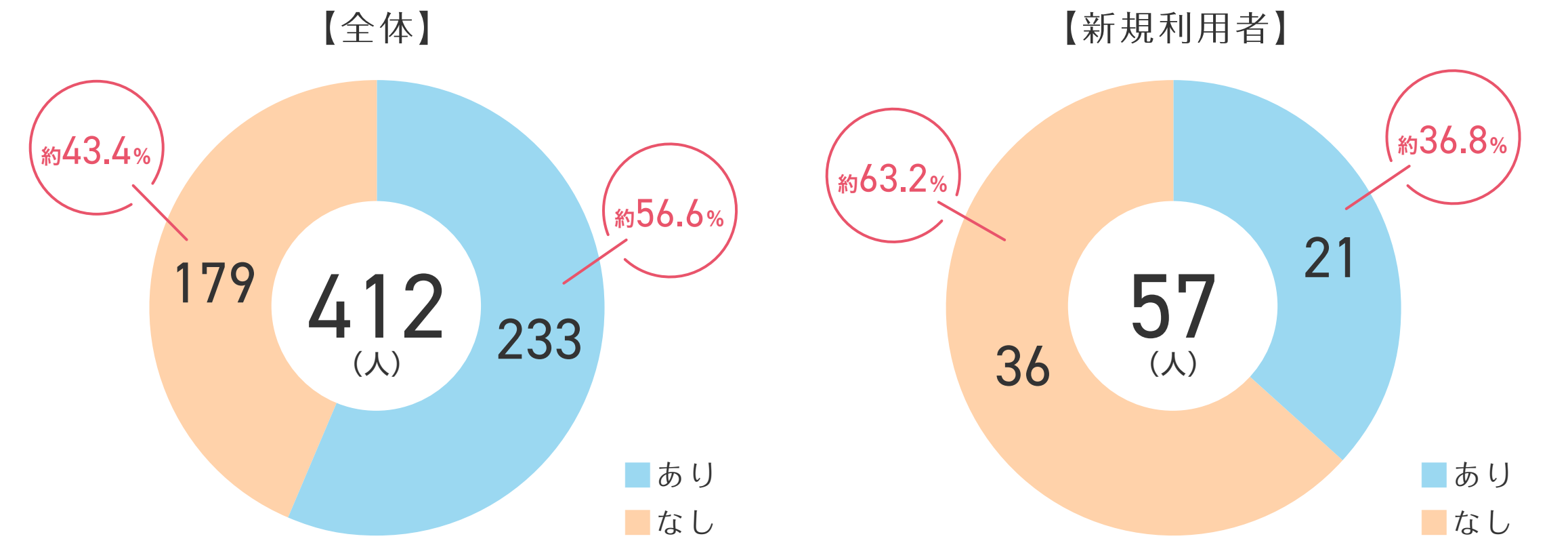
■利用廃止人数 ※2025年3月末時点



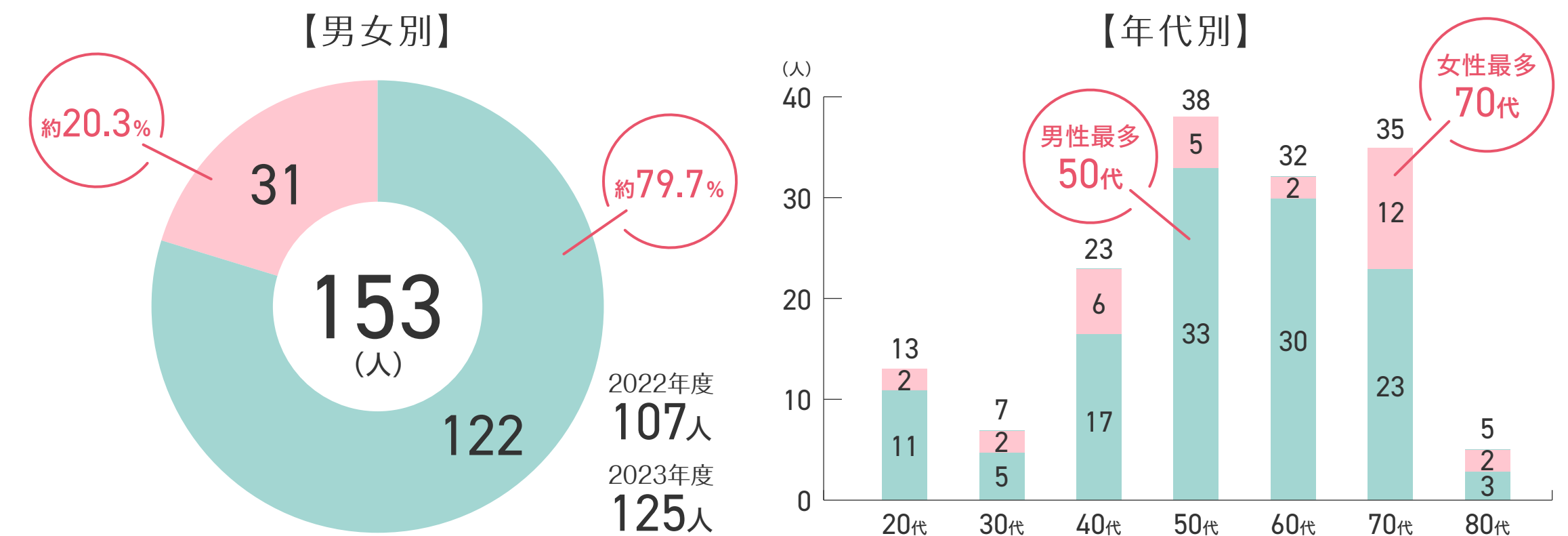
■利用廃止理由 ※2025年3月末時点



■支援者の有無 ※2025年3月末時点



■やどかりライフ参加者 ※2025年3月末時点



Introduction

ー2024年度 採択した3つの助成事業ー

2024年度は3回目の採択となるWAM助成事業、中央共同募金会 赤い羽根の助成、一般財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団の助成事業を採択し、それぞれ課題解決に向けた活動に取り組みました。

3つの助成事業に共通する大きなテーマ

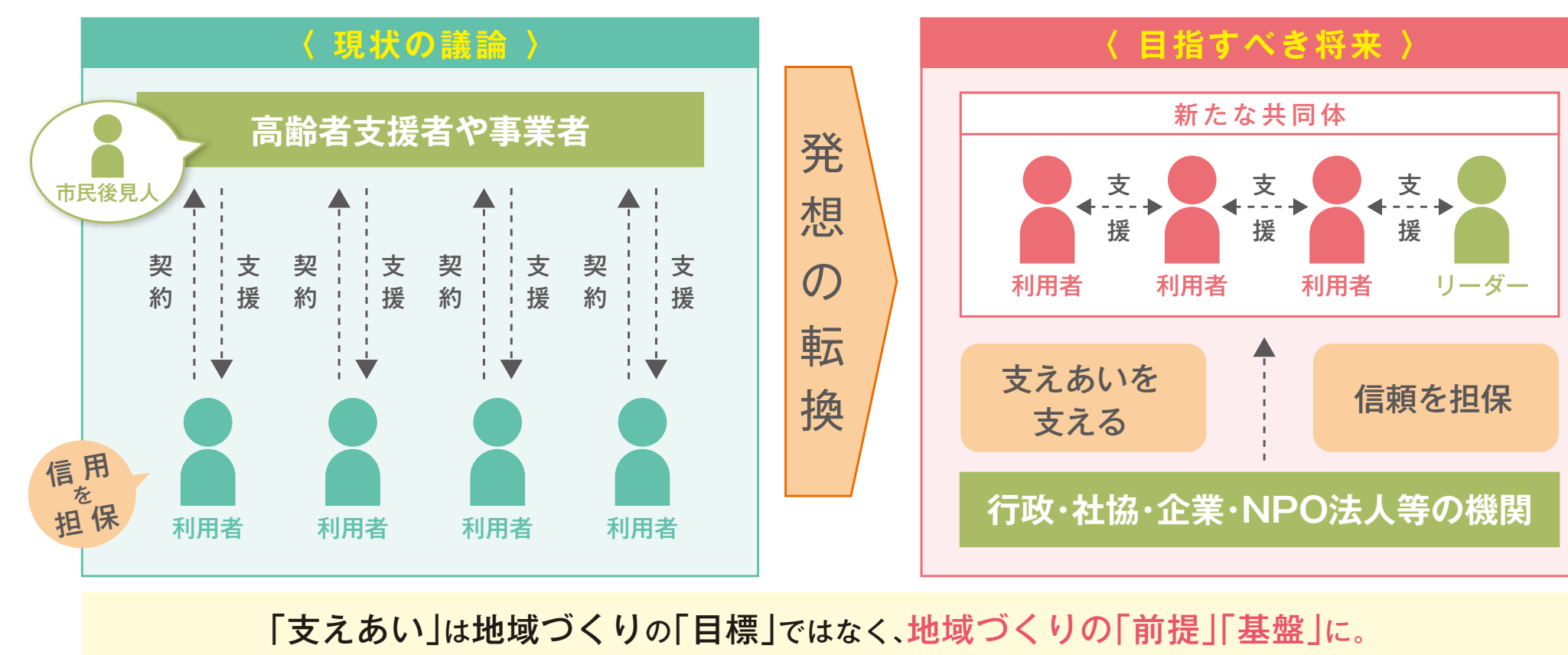
『当事者主体』

あらゆる課題に対して、当事者主体のコミュニティにより解決に向けて取り組んでいくことをベースにした活動。

コミュニティの在り方、NPOの在り方、様々な考え方がある中、このテーマにチャレンジし続けてきました。今後も、この活動に磨きをかけつつ、継続させていきたいと思えます。

＜コミュニティアプローチ＞

コミュニティの形成を目的とせず、コミュニティを手段、あるいは存在することを前提とし、コミュニティの働きや力によって、支援を必要とする方々の個々のニーズを充足するとともに、地域課題の解決を目指す課題解決アプローチ。



＜孤独死ゼロアクション＞



人と人の「つながり」の力で孤独死をゼロにすることを目指しています。困ったときに「助けて」と、お互いに声をあげられる「つながり」づくりを行っています。「孤独死ゼロアクション」は「当事者主体の居住支援 やどかりライフ」の延長線上にあり、当事者の方々を中心・主体とした取り組みです。

02



当事者主体の居住支援から
『コミュニティのしごと』を起こす事業



■ 概要

当事者主体の居住支援から 『コミュニティのしごと』を起こす事業

物価高騰の影響による生活困窮者・コロナ禍による失業者・DV被害者等「その日の屋根」が必要な人に対して安心して過ごすことのできる場所であり安定した地域生活の再構築を目指すためのステップであるシェルターを提供するとともに、当該事業を、居住に困難を抱えるという経験をした当事者が主体となって、無償ボランティア・有償ボランティア・アルバイト等の多層的な関わりが可能な形態で運営することにより、当事者が地域に参加し役割・居場所・つながりを得て、自律的な互助関係を構築するとともに、互助関係を基盤としつつ協同し『コミュニティのしごと』を生み出し、当事者が主体となってこれを遂行していく仕組みを構築する事業。

活動内容

- ①無料シェルターの運営 ②『コミュニティのしごと』による支援
- ③『コミュニティのしごと』づくり検討委員会 ④『コミュニティのしごと』に関する視察
- ⑤シンポジウムの開催

①無料シェルターの運営

物 価高騰の影響の中、目的が限定されない無料のシェルター、すなわち属性に関わらず誰にでも提供可能な「その日の屋根」を運営することにより、誰もが安心して過ごすことのできる場所及び地域生活を再構築することのできるステップを提供することを目的とし、個室シェルターを3戸運営しました。



【シェルター①】



【シェルター②】



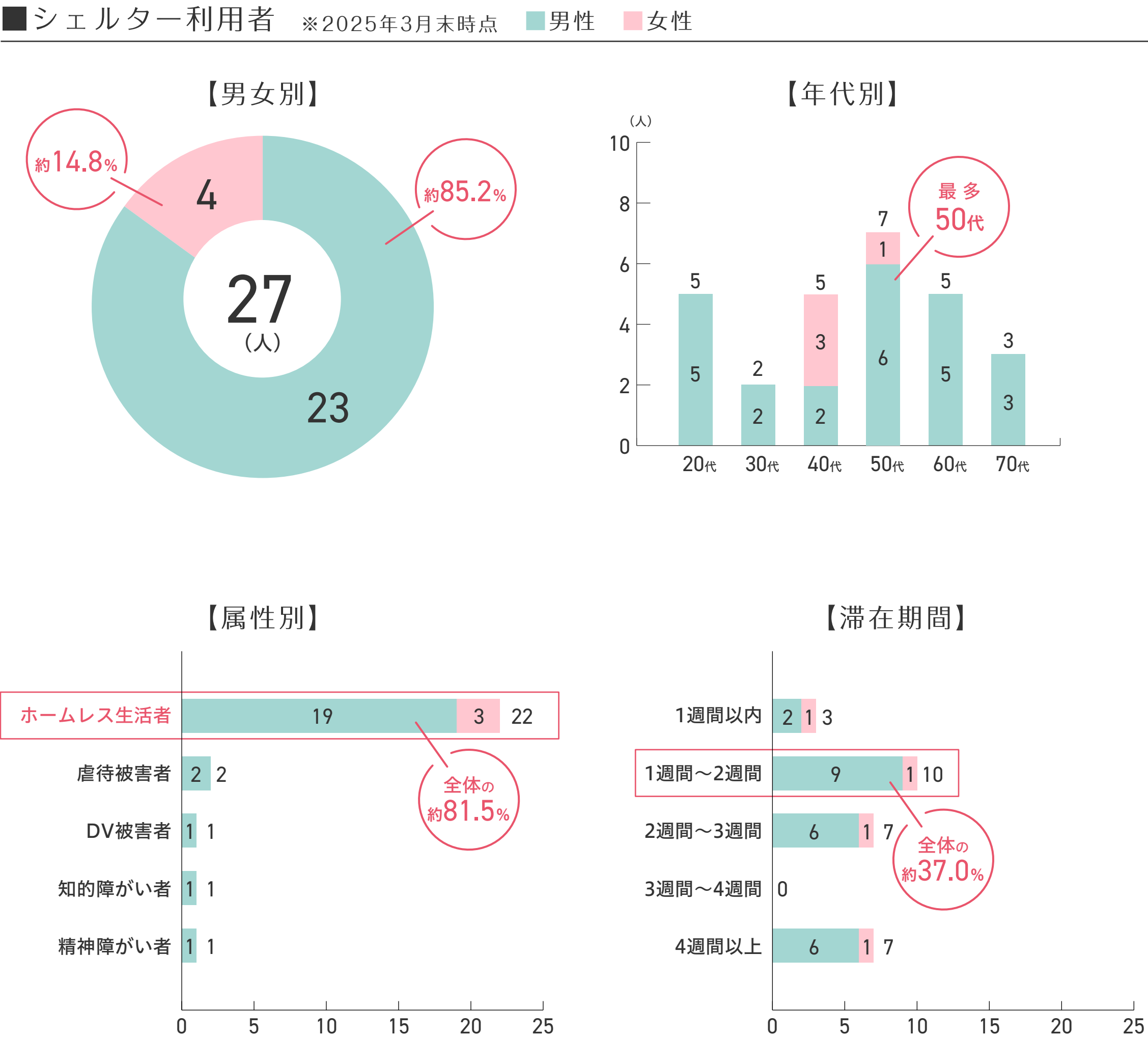
【シェルター③】

	【シェルター①】	【シェルター②】	【シェルター③】
場 所	鹿児島市中心部から車で約10分	鹿児島市中心部から車で約20分	鹿児島市中心部から車で約10分
間取り	1R(洋室8畳)	1K(和室6畳)	1R(洋室6畳)
広 さ	25.00㎡	16.38㎡	20.00㎡
設 備	バス・トイレ別／ベランダあり	バス・トイレ別／ベランダあり	バス・トイレ別／ベランダあり
家 電	冷蔵庫・洗濯機・電子レンジ・炊飯器・テレビ・掃除機・WIFI設備を完備し、入居時からすぐに生活できるようにしている。		
特 徴	・利用料は無料で、手持ちがなくても入居が可能。 ・火気厳禁のためガスコンロは設置していない。 ・消耗品などの生活必需品を設置し、身一つで入居に至っても受入れが可能な環境を整備している。		
運営期間	2024年4月1日～2025年3月31日		
備 考	シェルター①については、主にDV・虐待被害者を対象とする。 当事者主体のシェルター運営ではなく、専門職対応を主とする。		

■ シェルター利用実績（一例）

年 代	性 別	属 性	初回の相談先	利用に至った経緯	住居確保
20代	男 性	知的障がい者	不動産事業者	家賃滞納により退去するよう言われ、行くところがない。	確 保
40代	女 性	ホームレス生活者	本人より直接問合せ	他民間シェルターを利用していたが、退去を要請され行くところがない。	確 保
40代	女 性	ホームレス生活者	福祉事務所	車上生活を一緒にしていたパートナーと別れたため、ホームレス状態となった。	確 保
60代	男 性	ホームレス生活者	福祉事務所	仕事を探すため他県より鹿児島に来てカプセルホテルに宿泊していたが、お金を取られてしまったため生活保護を申請。	確 保
20代	男 性2名 (父・息子)	DV被害者	福祉事務所	配偶者からのDVにより他県より息子と避難してきた。 実家に身を寄せるも出ていくよう言われ行くところがない。	不 明
30代	男 性	精神障がい者	相談支援事業所	隣人の騒音により夜間全く眠れない。 転居先は決まっているが、転居できるまでシェルターを利用したい。	確 保
50代	女 性	虐待被害者	他市町村福祉事務所	留置所より出てくる親族から逃げる必要があるため、避難したい。	自宅へ 帰宅

■ シェルター利用者 ※2025年3月末時点



②『コミュニティのしごと』による支援

シェルター利用者の支援に居住困難に陥った経験のある当事者が主体的に参加することにより、双方が地域に、居場所・つながり・役割を得られるようにすることを目的とし、ピアサポーターが無償ボランティア・有償ボランティアで、シェルター利用者を含む地域で困難を抱えた方に『コミュニティのしごと』として支援を行いました。

この事業の実施をとおして、当事者主体の居住支援をファシリテート可能な人材が育成されてきており、ピアサポーターが定期的にミーティングを行うなど組織化されてきました。ピアサポーターを中心に支えあいの「見本」が提示されることで、ピアサポーター以外にも支えあい助けあいが広がり、その質も向上しました。

ちょっとした「気づき」、「気づかい」が
ピンチを回避する支えにつながっています。

少し疲れた様子で立っている高齢の利用者をマンションの階段で見つけた。
そのまま、近くの病院に連れて行ったところ、熱中症で入院となった。

近所の道路で自転車を押しながら転倒した方を発見。体を起こして原因を確認したところ、睡眠導入剤を飲んで出歩いていたとのことで、ケアマネージャーに連絡して本人に注意した。

体調不良と骨折で食事を摂るのも辛い状況なのに一人でなんとか暮らしていた。ちょうど65歳を迎えたところだったので、認定調査を受けて、介護サービスを受けよう提案した。

いつも居場所サロンにきていたのに、ある時来なくなったので、LINEを送ってみたところ、精神的に落ち込んでいて行けなかったとのことでLINEでの相談に応じ続けた。



case 1 同じマンション内で、 車椅子生活をサポート。

Profile

Mさん(56歳)〈車椅子〉〈金銭管理〉

- ・貯金があり、生活保護は受けていない。
- ・耳が遠く、会話がままならない。理解能力にも難あり。
- ・他人に相談するのが苦手で自分で解決しようとする性格。

- ① 相談支援専門員に相談し、福祉用具を設置しました。
- ② 就労支援B型への通所を開始し、やりがいを感じて働いているとのことです。
- ③ マンション内では、玄関の出入りなど、苦勞されることもあるので気がついた方がサポートをしています。



case 2 統合失調症の方のくらしを 継続的にサポート。

Profile

Sさん(68歳)〈統合失調症〉〈生活保護〉〈金銭管理〉

- ・部屋が汚れている。
- ・意味のわからない発言もあるが、基本的にはこちらの言うことは聞いてくれる。

- ① 部屋が汚く、虫が大量に発生していて、近所からのクレームがあり、虫の駆除を行いました。
- ② ある時、トイレで倒れて肋骨を骨折し、入院となりました。
- ③ 入院後、トイレの水漏れ修理を業者に手配、部屋の掃除も行いました。
- ④ 退院後にホームに入れるよう精神科で治療をしています。

case3

住居トラブルを起こし退去。
シェルターを利用し、
その後の転居をサポート。

Profile

Yさん(63歳)〈精神障がい者〉〈生活保護〉

- ・インターホンが鳴っても出ない。
- ・ポストに郵便物が溜まっている。
- ・マイペースに行動する。



① Yさんの住むマンションのオーナーから、
「下の階に漏水を起こしている。」
「何度も訪ねていて、中に居る様子ではあるが、
まったく出てこない。」と事務所に連絡が
ありました。

② 後日、オーナー、管理会社、水道工事会社の
方々とともに、訪問しました。
インターホンを鳴らしても出てこず、
オーナーが鍵を開けて入室し、部屋の状況を
確認しところ、キッチンの床が水びたしに
なっていたが、本人はそのまま生活して
いました。

③ 部屋は散らかっており、ゴミは分別された
状態ではあるものの、捨てられずに山積みにな
っていました。
Yさんの行動による苦情が、マンション住人
から多々あり、完全に孤立している状態でした。
その後、訪問を重ね、今後のことを継続的
に話し続けました。保護課の担当者が何度も
訪問しても、3年以上会えておらず困っている
ことや、このままでは住む場所がなくなっ
てしまうことなど・・・。



④ まずは退去せざるを得ないので、Yさんには
シェルターに入居していただき、その間に
部屋のゴミを片付け、家電や生活用品を、
トランクルームに運び入れました。



⑤ シェルター入居後も、
訪問を繰り返して、
生活の様子を確認し
ながら、保護課の方や、
保健支援課の方にも
来ていただき、今後に
ついて話し合いました。

⑥ 障害者手帳の更新を5年前から放置しており、
まずはその再交付のために、通院をスタート
する必要がありました。

⑦ 引越し先が決まり、トランクルームから
荷物を運び入れて、転居することができ
ました。

⑧ 転居後も、月に1回、病院同行し、相談員、
主治医との話を続けた上で、障害者手帳の
申請手続きを依頼しました。

⑨ 障害者手帳ができた後、相談支援専門員の方
に経緯を伝え、訪問看護をお願いしまし
た。今後、就労継続支援B型へ通所できる
よう手続き・支援を依頼しています。

～ピアサポーター コメント～

最初は話があまり通じず、ちゃんとサ
ポートできるか不安でしたが、徐々に
Yさんの言動がわかってくると、会話
の中に笑いが生まれてきて、楽しく
なってきました。まだ孤立状態を解消
したわけではないので、今後は地域生
活に馴染んでもらえるようサポート
していきたいと思います。

③『コミュニティのしごと』づくり検討委員会

『身寄り』がない人たちの互助会の設立から8年、やどかりライフ事業の開始から5年。当事者の活動は年々広がり、躍動を見せています。当初「え？そんなこともしているの？」と驚いた入退院支援は、いまや「やどかりライフ」の日常となっており、福祉へのつながりといった専門性を要する支援も当事者が中心となっています。困難な事案ほど、当事者の力を活かすように

しつつ対処しています。当事者たちがやっていることはすべて『コミュニティのしごと』と定義できるのではないかと考え、『コミュニティのしごと』に関する共通意識を醸成し、当該共通意識をもって地域全体に対して活動を発信して、地域の困りごとの解決に資する活動を行うことを目的とし、委員会を全8回実施しました。

日 時	場 所	内 容	参加人数
6月27日	居場所サロン (オンライン開催併用)	『コミュニティのしごと』とはなにか、前提の確認	7名
7月25日		『コミュニティのしごと』に対する前回の議論の確認と、定義の再検討	6名
8月23日		「組合」の可能性について大阪大学人間科学研究科の近藤準教授からの説明	7名
10月10日		「暮らしづくりネットワーク北芝」への視察振り返り	8名
11月11日		北芝の運営方法を参考に、やどかりにおける『コミュニティのしごと』の賃金や達成の可能性について考える	4名
12月21日		シンポジウムにおける『コミュニティのしごと』の発表について①	5名
1月19日		シンポジウムにおける『コミュニティのしごと』の発表について②	5名
3月28日		コミュニティのしごと作り検討委員会の報告書とりまとめについて	5名

■どのような『コミュニティのしごと』が行われているか

シェルター運営	通院支援・入退院支援	掃除・大掃除	アウトリーチ
居場所サロンの運営	料理会等イベント	見守り、見守りあい	福祉へのつながり

■様々な意見をもとに、『コミュニティのしごと』を分類

A：なかまのケアに関するしごと	B：コミュニティの維持・管理に関するしごと
A-1：気にかかる, いっしょにいる、会話、食事、交流 A-2：ことづけ A-3：同行支援 A-4：買物支援 A-5：通院支援・入退院支援 A-6：福祉サービスへのつながり支援 A-7：意思決定の支援(いっしょに考える)	B-1：気にかかる, いっしょにいる、会話、食事、交流 B-2：ことづけ B-3：(定期的な)サロンの開催 B-4：(非定期的な、特別な)イベントの開催 B-5：(物理的な場としての)サロンの清掃等管理 B-6：名簿の作成、管理等 B-7：会費の徴収、管理等
C：コミュニティの価値の向上に資するしごと	D：コミュニティをまとめるしごと
C-1：コミュニティやサロンに素敵な名称を付ける C-2：集会所の花壇に花を植える C-3：だれかの誕生日をみなで祝う C-4：だれかの初盆にみなで弔う	D-1：「まとめ役」「顔役」 D-2：「情報通」「常連」「古株」 D-3：「〇〇に聞けばだいたいわかる」「ここへ行けばだいたいわかる」 D-4：マネジメント(全体のデザイン、スケジュールの管理、ある意味での人事・労務)

■『コミュニティのしごと』を推進していくうえでなにが課題となっているのか？

① 無償と有償		② つながるまでの時間や手間	
課 題	『コミュニティのしごと』にはどうしても無償のものと有償のものが混在するが、無償と有償の線引きが明確でない。	課 題	ボランティアでケアをする関係になるには時間がかかる。「ご近所さん」になる必要がある。
議論の成果	・「手間賃」という捉え方 ・完成、達成、責任、保証が「賃金」 ・可能な範囲で関わることができる ・最後までやらなくていい ・失敗と評価しない枠組みが必要	議論の成果	最前線で活躍するピアサポーターの間では共通認識が醸成された。
これから	参加者全体で意識を共有していく。常に議論を継続していく。	これから	ピアサポーターの間で醸成された共通認識を他の参加者、職員、理事らが共有していく。「利用者、支援者」といった呼称の変更を検討する。
③ つながった後問題、つなげた後問題		④ NPOの役割	
課 題	福祉サービスへの「つなぎ」はつなぐだけでは終わらない。持続可能なのか？特に無償で持続可能なのか？	課 題	『コミュニティのしごと』を推進していくうえでのNPOの役割が定かでない。
議論の成果	こうした課題の発見自体が成果。	議論の成果	『コミュニティのしごと』の理解に努めた段階。
これから	事例を積み重ね、持続可能な地域のつながりをデザインする。 Cf.フィンランドでは家族以外の素人が介護をしてもお金がもらえる制度、登録制度があるとのこと。	これから	「支えあいを支える」に加えて「支えようとしたことを支える」ゆるゆる・ぐずぐず、でも放っておいてはいけない、ゆるくやるにはしかけ、胆力、見通しが必要

■『コミュニティのしごと』 現段階における理解

様々な議論を経て『コミュニティのしごと』とはなんなのか？私たちは次のように理解しています。あくまでとりあえずの理解ではありますが、ここからまた、先へと進んでいくことと

し、そのための道標として、『コミュニティのしごと』に関する現段階における理解を示しておきたいと思います。

コミュニティが存在するところにおいてコミュニティに属する構成員に生じるなにかしらの、すべきことが『コミュニティのしごと』である。
ただし、これは、あまり厳格な定義ではない。

家族も社会におけるコミュニティのひとつであるから、『コミュニティのしごと』が家族機能を内包するものであり、家族機能よりも広いものと考えるべきかもしれない。

『コミュニティのしごと』には、少なくとも
①なかまのケアに関するしごと
②コミュニティの維持・管理に関するしごと
③コミュニティの価値の向上に資するしごと
④コミュニティをまとめるしごとがある。

無償と有償が混在すること等、対価や関係性が流動的であり、常に緊張関係を内包する。それがゆえに、その成立を保障するのはおそらく手間ひまかかる民主主義であろう。

『コミュニティのしごと』を推進するためには、
ゆるく、ぐずぐず、でも放置しない胆力や見通しが必要であることがわかりました。
第三者であるNPOにも役割がありそうですが、明確にすることはできませんでした。
今後も議論を継続的に進め、理解を深めていく必要があります。

④『コミュニティのしごと』に関する視察

他 地域におけるコミュニティづくり・しごとづくりの実践を視察することにより、居住困難に陥った経験を有しているピアサポーターによる『コミュニティのしごと』を充実発展させ

ることを目的に、大阪箕面市北芝地区で活躍する「暮らしづくりネットワーク北芝」の視察を行いました。

■団体概要

所在地:大阪府箕面市萱野2-11-4
 設立日:2001年6月13日
 スタッフ数:34名(2024年9月現在)
 担当者:尼野千絵氏

■主な業務内容

箕面市・萱野にある北芝地域の課題解決のために「暮らしづくり」の活動を起こそうとしている個人やNPOグループの支援(法人化へのサポートや資金援助、相談事業、コミュニティスペースを活用したチャレンジの場の提供など)

参加者:芝田淳(NPO法人やどかりプラス理事長)、高木幸一郎(株式会社リーバルホールディングス代表取締役)、近藤和敬(大阪大学大学院人間科学研究科准教授)、近藤千鶴(NOP法人やどかりプラス事務局)
 寺尾真次(NPO法人やどかりプラスピアサポーター)、伊藤景一(NPO法人やどかりプラスピアサポーター)



【「らいとぴあ21」にて尼野氏からの説明を受ける様子】

■ライトピアの子供施設ぴあぴあルーム(小学生、保護者向け)

こどもたちの放課後の居場所。障害のある子もない子も交じって時間を過ごしていました。子どもの和太鼓クラブは、海外遠征を行うなど本格的だとのこと。また、ここで子供たちが「お仕事」をすると、地域通貨である「まーぶ」を稼ぐことができる仕組みとなっており、ピア食堂という食堂もあって、子どもは100まーぶでご飯を食べることができます。



【若者と高齢者を結びつけた「なんかり倉庫」】

■なんか起こり倉庫(若者向け)

北芝では若者たちの仕事のハブとなっています。若者たちだけでは当日仕事に来なかったり、仕事をうまくできなかったりするので、地域のお父さんの存在の高齢者男性がフォローを行っています。男性が「当日LINE連絡もなく、仕事に来てくれない場合もありますが、怒るのではなく、(ご飯を)おごる」と話されていたのが印象的でした。拠点となっている倉庫は、地域の方が無償で貸してくれています。



【老人いこいの家視察の様子】

■老人いこいの家(高齢者向け)

北芝地域の高齢者のいこいの場となっている場所で、カラオケや編み物教室等のスケジュールが毎日ぎっしり催されていました。よく来るメンバーは10人くらいで固定の方が多いとのことでしたが、閉鎖的な感じはなく開放的な印象でした。



【コミュニティスペース「芝樂」】



■南の家(乳幼児、子供・保護者向け)

赤ちゃんの駅(授乳やオムツ替えなどができる施設やスペース)も兼ねている地域の保健室のような施設。子ども食堂等のイベントが開かれています。

■コミュニティスペース「芝樂」(全年齢対象)

朝市やフリーマーケットなどのイベントが定期的に開かれている、芝の広場。

駄菓子&バーもあり、子どもが駄菓子を購入し、そこで食べることができたり、大人が夜に駄菓子をおつまみに、お酒を飲んだりすることができます。

510deliでは、弁当、総菜、被災地支援品等の販売をしているお店もあります。

イベントが催されることが多く、地域外の人にも参加されてるとのことでした。



■地域通貨「まーぶ」

「まーぶ」という無期限で使える地域通貨を、現在約2500万円分ほど発行しています。この地域通貨を子どもの居場所で日常的に使い、お手伝いをしてもらっています。

地域のショッピングセンター(箕面キューズモール)に、約5万まーぶを買い取ってもらい、それをイベントで使ってもらうことで連携しています。子どもは掃除やビラ配り等のお手伝いを20分程度することで「まーぶ」がもらえ、大人はその間にショッピングセンターでゆっくり買い物ができる。これにより、ショッピングセンターは5万まーぶ(5万円)の広報でたくさんの人に来てもらえるというWin-Winの関係を築くことができています。

- Point 1 250世帯の小さな地域に、多様な世代向けの仕事・食・居場所・文化活動が密集し、地域を活性化させていました。
- Point 2 地域通貨や広報誌など住民のニーズに応じた活動で、住民が主体的に参加できる場が生まれ、それにより自然な形で地域マネジメントが行われていました。
- Point 3 地域住民の主体性を支えるために、NPOが責任と役割や活動への解釈の多様さを許容する等、柔軟な支援を行っていて、誰もが参加しやすい状況となっていました。

北芝の活動から「地域住民の声を大切にする」「活動を楽しめる環境を作る」といった本質的な要素を学び、やどかりの状況に合わせて工夫することが重要だと思いました。



事業の成果を示し、シェルターの必要性を明らかにするとともに、互助の推進と互助を基盤とした『コミュニティのしごと』づくりが当事者と地域の課題を解決する可能性について全国に

発信することを目的とし、2025年1月31日にシンポジウムを鹿児島カクイクス交流ホールとオンライン(zoomウェビナー)にて開催しました。

■『であい、つながり、げんき』北芝の協働のまちづくりと仕事づくり

基調公演として、視察にも伺わせていただいた、NPO法人暮らしづくりネットワーク北芝地域ささえあい推進室コーディネーター 尼野千絵氏に登壇いただきました。

もともと部落解放運動のあった大阪府箕面市の北芝地域において、1990年代に「じぶんたちの手で、じぶんたちが住みよいまちづくりを！」と行政依存からの脱却を目指す動きが起こる中で、2001年に設立された「特定非営利活動法人暮らしづくりネットワーク北芝」。住民どうしがささえあう豊かな暮らしづくりを目指して、個別支援にとどまらず、地域づくりの

マネジメントを行っています。

北芝の多種多様な活動や地域づくりのための様々な「しかけ」について紹介がありました。

また、マネジメントにおけるコンセプトとして、①ゆるゆる玄関ドア（責任と役割や活動への解釈の多様さを許容する）、②くるくるクローゼット（立場・役割を気にせず自然体で参加できる）、③おやおや感知器（課題を感知しつつ地域の中にいることを許容する）、④ほどほどカレンダー（計画がないところからのアクション）、というささえあいの4つの装置の説明もありました。



■「地域共生社会におけるコミュニティのしごと」

報告として、事務局職員の近藤千鶴より、法人の概要紹介に加え、やどかり利用者のコミュニティで実際に行われている住民どうしの支えあい、コミュニティでの支えあいのモデルになっているピアサポーターについて説明しました。

また、ピアサポーターがどのような『コミュニティのしごと』を行っているのかの事例紹介をピアサポーターの一人である寺尾真次より報告しました。

■パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、高木幸一郎氏をコーディネーター、近藤和敬氏をコメンテーターとし、パネリストには基調講演にご登壇いただいた尼野千絵氏ほか、NPO法人ややどかりプラスの芝田淳、近藤千鶴、寺尾真次が登壇しました。まず、近藤より本事業において『コミュニ

ティのしごと』が実際に行われる中でどのような発見や課題があったのか、提題発表の後、コミュニティのしごとについての4つの論点を取り上げ、「地域共生社会におけるコミュニティのしごと」についてパネリストのディスカッションが行われました。

論点 ① >>>

地域コミュニティは多くの場合、家族とは違い、地域を共有しているだけの他人の集まりなので、メンバーを統合・維持し続けることそれ自体が「しごと」として必要ではないか。

論点 ③ >>>

メンバー間で自発的な支えあいが継続するためには、NPOは「支えあい」を支えるための、実効性のある仕組みづくりを目指すべきではないか

論点 ④ >>>

メンバーの疲弊を防ぎ、支えあいが継続するためには、「しごと」を有償とするか無償とするかの議論も必要ではないか

論点 ② >>>

「メンバーをケアするしごと」の中にはちょっとした気遣いや無償の支えあいで解決するような「負担が軽い仕事」と、時間もコストもかかり、責任も重く、解決も見通せない「負担が重い仕事」があるのではないか。



【パネルディスカッションの様子】

2. 達成していた事業の内容
「当事者主体の居住支援から『コミュニティのしごと』を起す」

事業概要

「物価高騰の影響による生活困窮者・コロナ禍による失業・DV被害者等「その日の屋根」が必要な人に対して安心して過ごすことのできる場所であり安定した地域生活の再構築を目指すためのステップであるシェルターを提供するとともに、当該事業を、居住に困難を抱えるという経験をした当事者が主体となって、無償ボランティア・有償ボランティア・アルバイト等の多面的な関わりが可能な形態で運営することにより、当事者が地域に参加し役割・役割所・つながりを得て、自律的な互助関係を構築するとともに、互助関係を基盤としてつつ協同し「コミュニティのしごと」を生み出し、当事者が主体となってこれを運行していく仕組みを構築する事業」

ざっくり言うと

- ① 滞在費無料シェルターをNPOが居住困難当事者と協力して運営し、
- ② シェルター利用中の利用者や地域移行した利用者を、当事者自身がケアする仕組みを運営し、
- ③ その結果を当事者と有識者を交えた会議で共通認識を醸成することで、『コミュニティのしごと』を生み出し、当事者が主体となってこれを運行していく仕組みを構築する事業

総事業費 6,848千円

4. 「コミュニティのしごと」とは何か その特徴と評価
コミュニティを統合・維持するしごと①

シェルター運営	アウトリーチ	居場所サロン・料理会
入居中からコミュニティのメンバーであるピアが関わることで、つながり形成し、シェルター利用者のコミュニティへの移行をスムーズにする取り組み。	ピアサポーターが課題状態の利用者を回り、利用者とつながりを作る取り組み。	利用者が多くいる地域で、何ともしに集まれる居場所サロンを週1で運営。シェルター支援やアウトリーチで、ピアと関係ができた利用者が他の利用者につながるステップとしても機能。
2者関係	2者関係	3者関係

2者関係のつながりと3者関係（コミュニティ）のつながりが両方できる仕組みが必要！

「地域共生社会におけるコミュニティのしごと」

case 05 意思の確認が取りづらい認知症初期の方へのサポート。

Profile
Kさん(73歳)
(年金受給者)
・食事をあまり摂らず、食料管理ができていない。
・横断歩道を渡りたくない。居場所の認知が多いため、電話も利用しづらい状況が続き。

① 部屋はゴミだらけで、トイレやお風呂、キッチンも使えない状況でした。Kさんは開口・無気力な方で、好きなお話を聞き、食事をあまり摂らず、部屋にこもりがちな生活をしていました。

② 一人暮らしを継続するためには、介護サービスが必要だと考え、病院に連れて行くことになりました。しかし、健康保険に未加入であることが発覚し、まずは健康保険への加入を代理で手続きしました。

③ 司法書士の会費管理のもと、スマートフォンの契約、銀行口座の開設などのサポートを行いました。

④ 認知症の疑いがあったので、メンタルクリニックを受診しました。そこから認知症を依頼、介護サービスへとつながりました。

⑤ 介護サービスでは、食生活改善を促してもらおうと、宅配弁当を利用しました。また、ヘルパーも依頼しようとしたが、あまりにも部屋が汚かったので断念しました。

「地域共生社会におけるコミュニティのしごと」

① 生活費を出金するためにATMの操作を教えたのですが、何回やってもできないので、毎週、手渡ししていました。

② ある日、外を歩いているときに倒れたと病院から電話がありました。その時は通行人の方が家まで送ってくださったのですが、意識が朦朧としていたので、病院へ搬送、そのまま入院となりました。

③ その後は、病院、市役所との関係構築の手続きを急ぎに進め、最後は火葬場でお別れをしました。

comment
一番大変だったのは、意思の確認が取れないことでした。親をやるにしても、一旦確認して数日後、再度確認といった具合でしか進めていけませんでした。また、サポートを受けようと思っても、支払保険をギリギリ受けられない状況だと、関係構築が難しいと感じました。

④ 直前大動脈瘤、発症と診断されました。本人は完治そうにしていたのですが、発症がひどいため、食事ができず点滴だけで栄養を入っていたので、体力が落ちてきていました。

⑤ 入院中は、看護士を持って行ったり、買い物に行ったり、部屋の掃除物の確認をしたりしました。



【コーディネーター／高木 幸一郎 氏】



【コメンテーター／近藤 和敬 氏】



【パネリスト／尼野 千絵 氏】



【パネリスト／芝田 淳】



【パネリスト／近藤 千鶴】



【パネリスト／寺尾 真次】

ディスカッションの中では、「地域共生社会におけるコミュニティのしごと」を維持・継続するための議論、『コミュニティのしごと』には負担の軽い仕事から負担の重い仕事までグラデーションがありそのしごとを有償とするか、無償とするかの議論、またコミュニティの支えあいを支えるためのNPOの役割に関する議論等がなされました。

身寄りがなく、課題が生じた時に頼れる人がいない方が集まって成り立っているやどかりのコミュニティは、何もないところから少しずつ形成されたグループです。また、その構成員

は全ての行政サービスの網の目をすり抜けてきた方々であるため、行政サービスともつながりが無い状態。それに対し、北芝のコミュニティは、地域に根付いていて、伝統的な家族形態を引き継ぐことができている状態であるため、同じ「コミュニティ」といってもそこには大きな違いがあります。

しかし、NPO法人暮らしづくりネットワーク北芝で実践されている「ゆるゆる・くるくる・おやおや・ほどほど」のコミュニティマネジメントは、やどかりのコミュニティにおいても非常に重要な視点で、ゆるいままに居続けることを

可能にするしくみ、当事者に逃げ場があること、NPOが緊急支援をできること等の「ゆるい共同体」を目指していくべきであろうといった意見交換がなされました。

また、ピアサポーターからは「現段階でも住人どうしでミーティングやLINEグループ等密に相談をし合える環境は整っており、まずいなという時は専門職に相談している」との報告がある中「いつでも介入できる専門職がいるということが、コミュニティの中で共通認識としてあることが重要である」「NPOの下支えとして、やどかりライフ参加者みんなですべてに議論をする

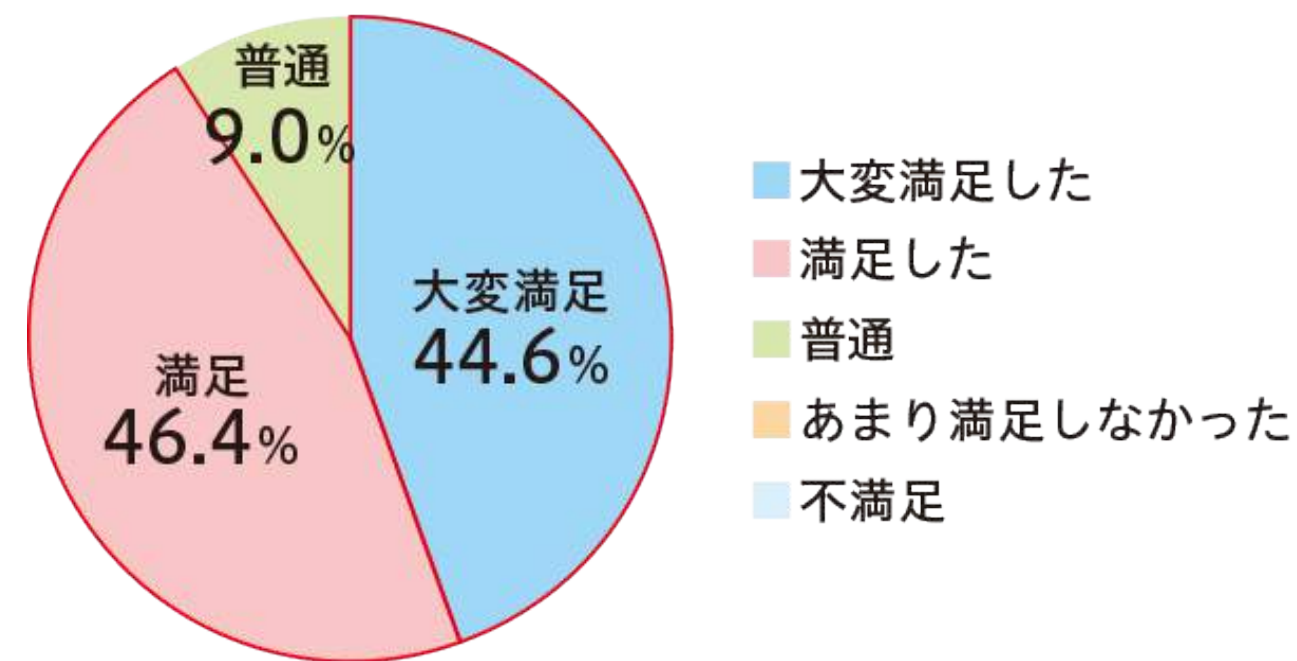
場を作っておくという民主制が重要ではないか」といった意見が出されました。

『コミュニティのしごと』による支援については様々な葛藤が生じ、議論は尽きず、常に何が正解であるかの回答は出てこないが、それでも常に参加者全員で話し合う場を持ち続けること、そして参加者のゆるさを許容できる「ゆるい共同体」を目指していくことが、やどかりの現時点での理解と考えられます。

■シンポジウム後のアンケート結果

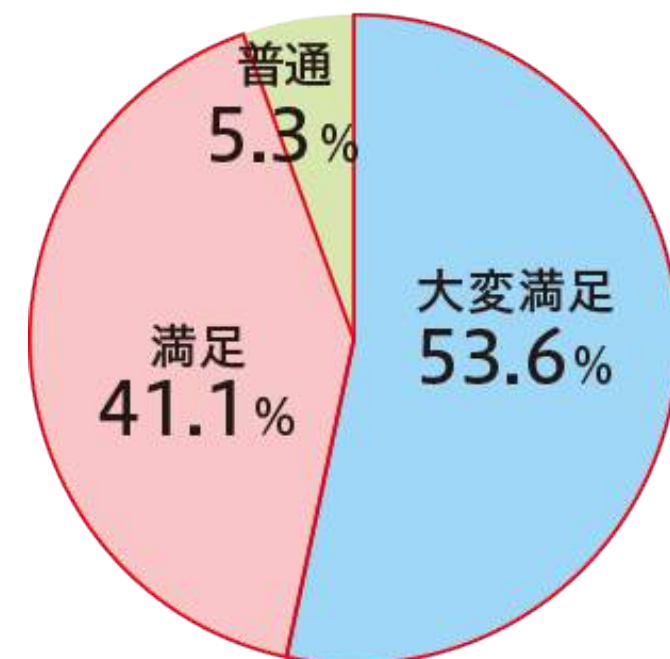
シンポジウムにオンラインで参加された方々に対しアンケートを行った結果、55件の回答が得られた。シンポジウムの全体的な感想では、「大変満足した」が44.6%、「満足した」が46.4%と、良い評価を得ることができました。

■シンポジウムの全体的な感想をお聞かせください。



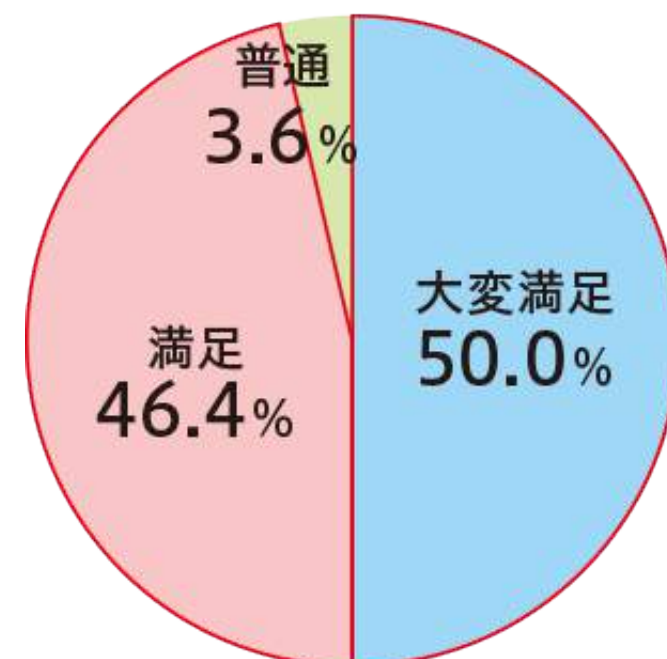
■基調講演

「『であい、つながり、げんき』北芝の協働のまちづくりと仕事づくり」の感想をお聞かせください。

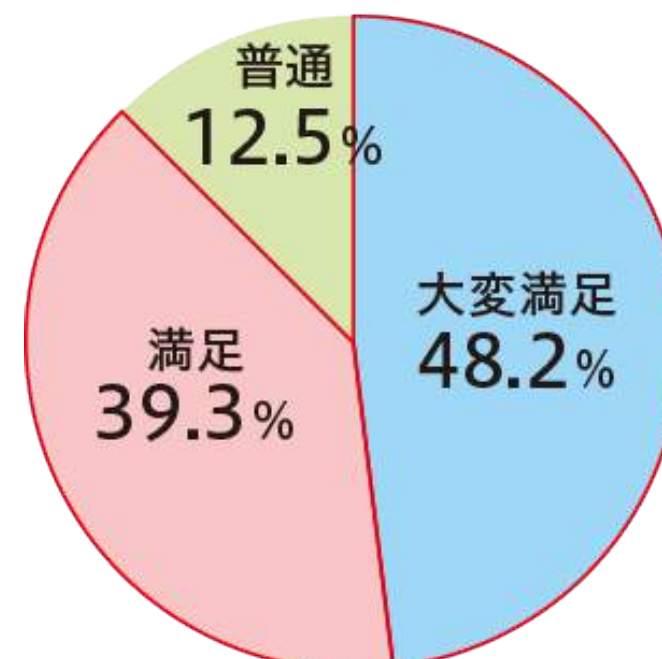


■報告

「やどかりプラス コミュニティにおける『コミュニティのしごと』とは」の感想をお聞かせください。



■パネルディスカッション 「『コミュニティのしごと』と地域共生社会」の全体的な感想をお聞かせください。



■シンポジウム全体への感想

鹿児島地域の居住支援について知れた。

元行政職員で、現在権利擁護団体におります。行政がやどかりサポートのようにあるべきではと近藤先生もおっしゃっていた(大意)ように思いますが、同感です。芝田先生には昨年度たいへんお世話になりましたが、今後もやどかりプラスのご活動を注視し、遠くからですが応援していきたいです。そして私たちの地域でも、同じようにとは言えませんが少しずつ身寄り問題に取り組んでいきます。

それぞれのモデルを参考にして、自分たちの支援に繋げていきたいと思いました。ありがとうございました。

やどかりさんがピアの方を信頼されていることが何より素晴らしいことだと感じました。

地域共生社会の実現について、多面的な視点での意見が飛び交い、それらを聴かせていただき、大変有意義な時間でした。

私の所属するNPO法人はひきこもり当事者の居住支援を実施しております。やどかりさんの実践と近いものがあり、とても興味深かったです。また近藤先生が最後部にご指摘されたように行政から金をとっていく、巻き込むということも重要と考え今後当団体でも検討したいと思います。

やどかりプラスの「地域」は目的をもったグループとしての「地域」なので、「統合」などが主題となり、その方向性は人の人生のいちばん困難な(それまでは「家族」が担わされていた)事案、具体的にいえば、医療決定や、みとりのような話になっていくのでしょうか。困難であり、長い継続の話になっていく。



居場所を失った人への
緊急活動応援助成

つながりを失った当事者による
主体的互助活動を基盤とした居住支援事業



■ 概要

つながりを失った当事者による 主体的互助活動を基盤とした居住支援事業

「地域ふくし連帯保証」の利用者の中には、地域とつながることができず、孤独・孤立状態にある方がいます。こうした方々にアプローチし、つながり作りを促す必要があります。また、新たに「地域ふくし連帯保証」を利用する方が、より確実に地域とのつながりを得られるような活動や体制が求められています。「身寄り問題」は、住居における連帯保証人の問題にとどまらず、入院・入所時の問題や死後の対応の問題を含んでいます。さらに、これらの課題を当事者主体で解決していく必要があります。社会的に孤立した当事者自身が主人公になってこれらの課題を解決し、当事者が同様の状況にある当事者と支えあい助けあう循環を作り出します。

活動内容

- ①当事者による個別訪問活動 ②地域グループ活動
- ③当事者主体による「やどかり交民館」の運営
(サロン活動／つながるファイルを書く会／つながるあんしん事業参加者の集い)

①当事者による個別訪問活動

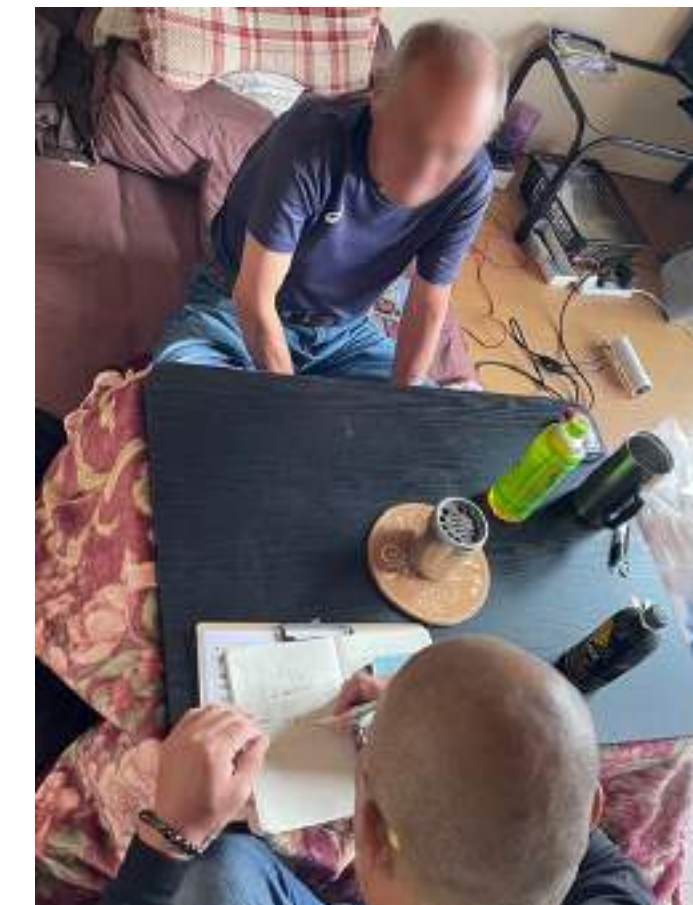
居 住困難に陥った経験を持つ当事者自身が、社会的孤立状態に陥っていると危惧される対象者に個別訪問を実施。対象者の状況に応じて居場所事業への参加、「やどかりライフ」への参加、LINEのオープンチャットや安否確認グループへの参加を促しました。

■ アウトリーチ訪問件数

3月	45件	8月	48件
4月	29件	9月	54件
5月	48件	10月	53件
6月	32件	11月	55件
7月	45件	12月	47件

のべ456件

最初是对象者約140名を順に周るだけ周っていましたが、ミーティングを重ね、エリアを担当に分けるようにしたり、アンケートをデジタルにしたりと工夫して効率よく、月に1度、顔を合わせられる頻度を目標に実施しました。



■ アンケートツール

初めて訪問に対応いただいた方と話がしやすいように、アンケートを用意しています。紙媒体に聞いた内容についてメモを取り、スマホで入力しています。事務局はスプレッドシートで状況を確認することができます。

■ アウトリーチアンケート		年	月	日 () / 訪問者
訪問対象者	氏 名	年 齢	趣味・特技	
	住 所	職業・特任	仕事など	
居 住	いつ頃から現在の住まいにお住まいですか？	今まで経験されたお仕事について		
	年 月 日 月 日 年 月 日	通勤している病院はありますか？		
生活リズム	このあたりの利用性はどうか？	健康状態	病名・症状	
	起床 時 / 就寝 時	食事 時 / 就寝 時		
生活リズム	1日 回 朝食 時 / 昼食 時 / 夕食 時	通勤状況	通勤手段	
	自炊されていますか？それともスーパーなどで購入されていますか？	通勤状況	通勤手段	
好きな食べ物	好きな食べ物	通勤状況	通勤手段	
	嫌いな食べ物	通勤状況	通勤手段	
つながり	よく使う通信手段	通勤状況	通勤手段	
	よくお話しされている方	通勤状況	通勤手段	
外出	話す頻度	通勤状況	通勤手段	
	やどかりは、職場所サロンのLINEグループを運営しています。良かったら参加しませんか？	通勤状況	通勤手段	
外 出	週に何回くらい、どこに外出されていますか？交通手段はありますか？	通勤状況	通勤手段	
		通勤状況	通勤手段	



■ 安否確認LINEグループ『ヒトコエ』

毎日何か“ヒトコエ”掛け合って安否確認を行うためのLINEグループ。4～5人で1グループを作っており、現在5グループ16人で運用しています。今後も拡大させていけるように積極的に声をかけいきます。



■ ツナガル活動促進チラシ

活動内容をラインナップで掲載したチラシを配布し、参加を促しました。地域包括支援センターに協力を依頼し、より多くの「身寄り」のない方々に、認知いただけるようにしました。



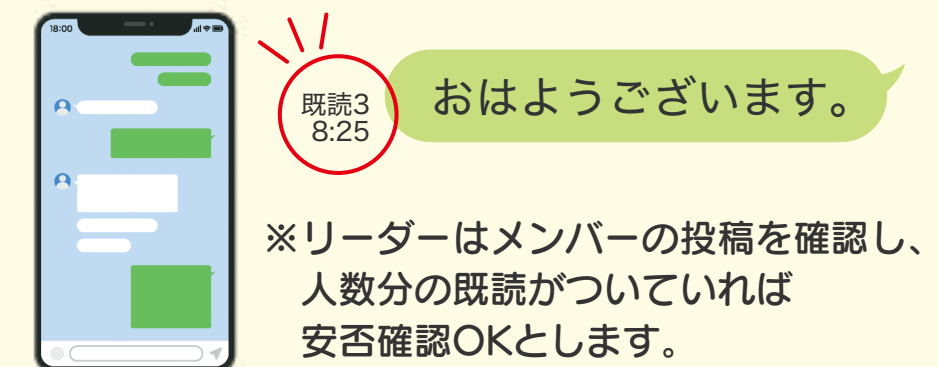
■ 不在時お知らせチラシ



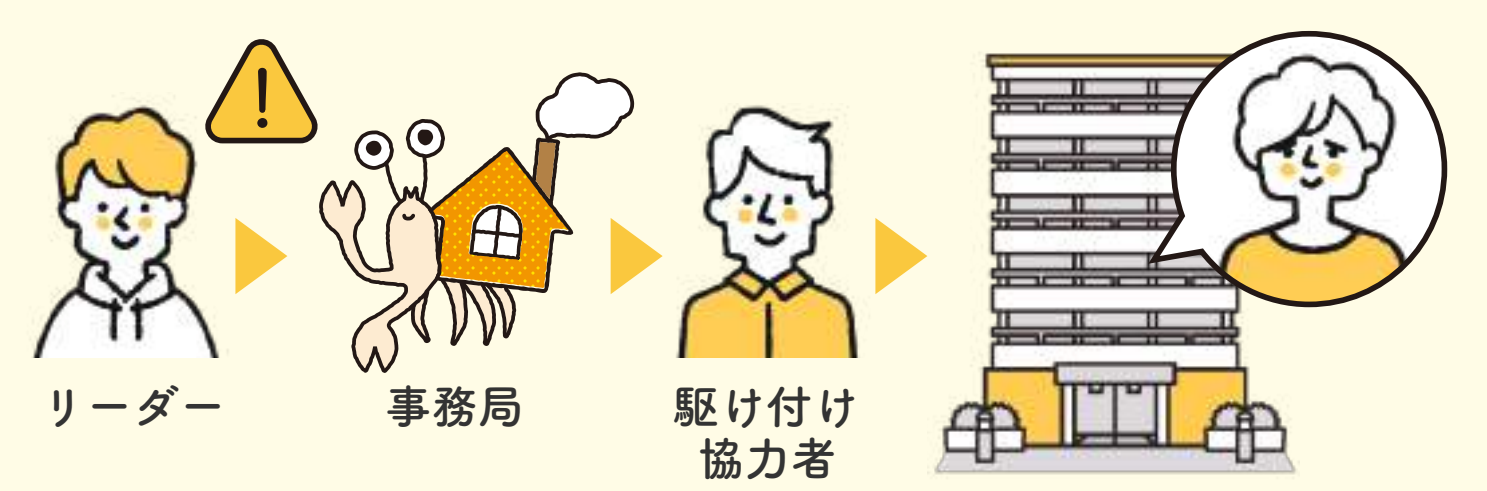
1 LINEグループのメンバーは4人～5人で構成。事務局でリーダーを1人設定します。



2 毎日7:00～22:00の間に挨拶文やスタンプを送信。他のメンバーの投稿を確認するだけでも大丈夫です。



3 リーダーは発言も既読もつかないメンバーがいたら、事務局へ報告。駆け付けに協力していただける方に動いていただくよう要請します。



②地域グループ活動

地域ごとにアウトリーチ活動を進める中で、全体的な活動(唐湊地区でのサロン活動など)に参加いただくといことが、困難な方が多くいるとわかりました。

そこで、ピアサポーターを中心に、主体的な互助活動をそれぞれの地域でグループを形成す

ることで、より継続的につながりを持つことができると考え、各地域での集まりの機会を設けました。

各地区での参加人数が見込めるようになってきたタイミングで全体の集いも織り交ぜて開催しました。



■地域グループ活動 イベント開催実績

	日付	イベント名	地区	人数
①	6月11日	カレーの会	唐湊地区	13名
②	9月3日	納涼そうめん祭り	唐湊地区	11名
③	10月20日	学生会館の集い	郡元地区	7名
④	10月22日	カレーの会	全体	16名
⑤	11月13日	プリンスの会	谷山地区	8名
⑥	11月27日	お好み焼きの会	全体	15名
⑦	12月10日	とその会	唐湊地区	8名
⑧	12月27日	年越しそばの会	全体	12名

■告知ツール



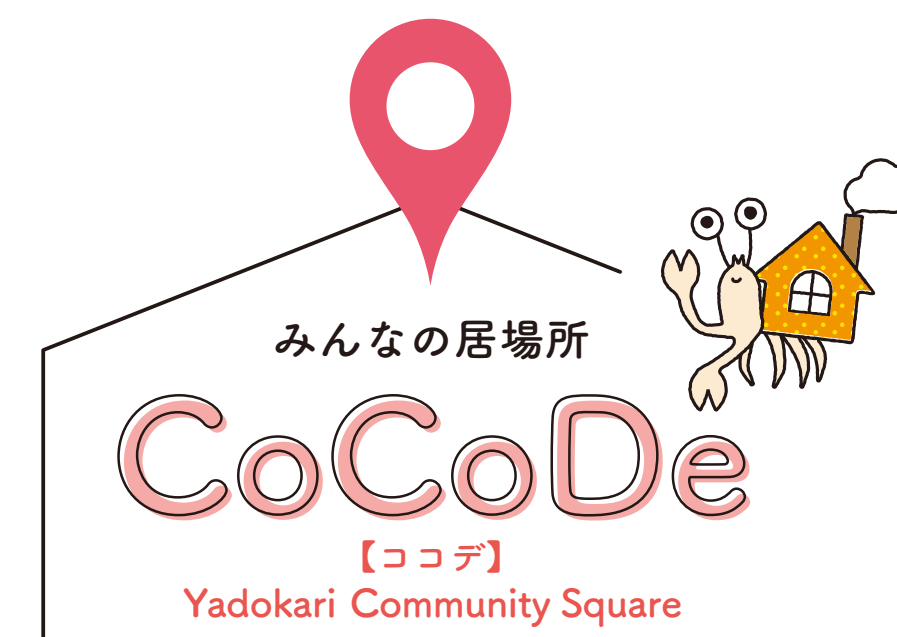
【手配りチラシ】

【LINEオープンチャット】

③当事者主体による「やどかり交民館」の運営

コロナ禍の影響で孤立状態に陥っている方々がつながりを取り戻し、社会の中で役割を回復するための「やどかり公民館」。そこで行われるサロン活動・つながるファイルを書く会・つながるあんしん事業参加者のためのサロンや、集いなどを当事者主体で運営しました。

居場所サロンで使用していた会場が引越しとなり、名称を「CoCoDe-ココデ-」としこれからもみんなに親しみを持って馴染んでいただけるようにしました。その引越しも当事者のメンバーが積極的に手伝いました。



【引越しの様子】



【居場所サロン案内チラシ】



【予定表】

■居場所サロンの運営

参加メンバーは、数名は固定化されていますが、新しいやどかりライフ参加者へ、積極的に誘っているため、新規の参加者が増えてきています。そのまま毎週来る人もいらっしゃいますが、何人かは隔週で来たりと、自身のペースで参加されています。仕事をされている人も、シフトによっては、たまにいらっしゃいます。

月	回数	人数	月平均人数
3月	4回	38人	平均 9.5人
4月	5回	58人	平均 11.6人
5月	4回	37人	平均 9.3人
6月	4回	32人	平均 8.0人
7月	5回	29人	平均 5.8人
8月	4回	28人	平均 7.0人
9月	4回	32人	平均 8.0人
10月	5回	46人	平均 9.2人
11月	4回	31人	平均 7.8人
12月	4回	29人	平均 7.3人



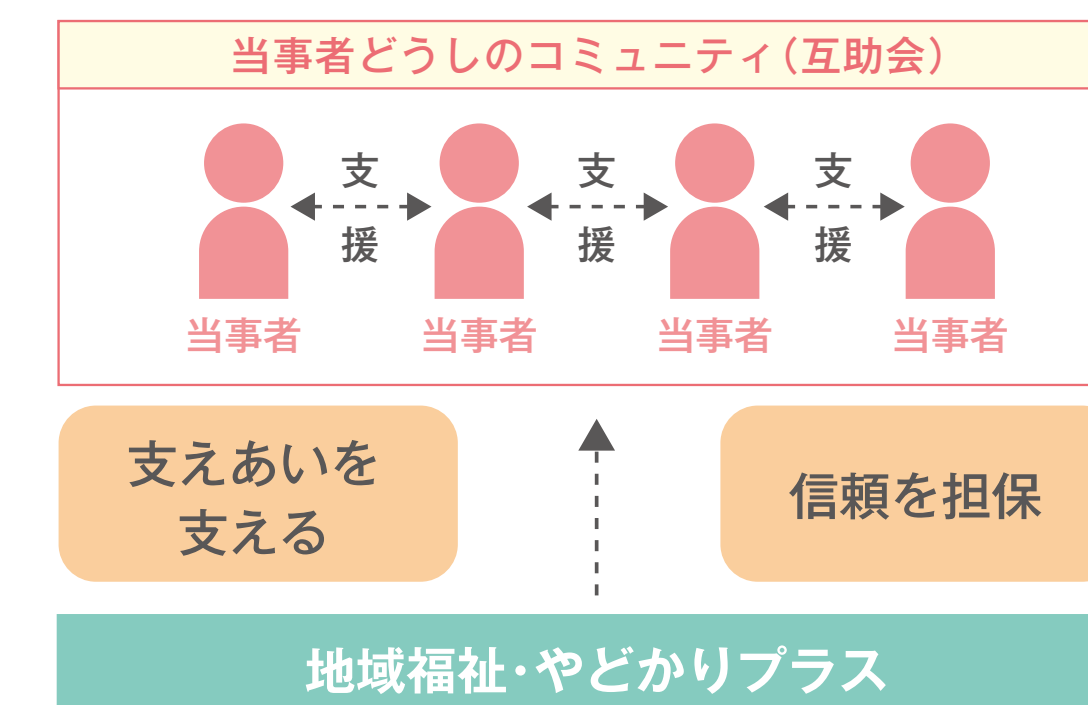
■つながるあんしん事業

身寄りがない当事者が地域と「つながる」ことで、病気になったとき、死んだときなど、『身寄り』がないことで支障が生じやすい事態に陥っても地域のなかまや支援者が適切に対応できる体制を自ら作り出し、「あんしん」して日々の生活を営むことができるようにすることを目的とする事業です。

この事業の参加者は、一定の地域や属性ごとに互助会を設立し、当事者どうしで、なかまが入院をしたりけがをしたりして困っているときには互いに支えあい・助けあい、なかまの最期にあたっては互いに見送りあい・弔いあいます。また、「つながるファイル」を書き、その内容をなかまに託すことで、『身寄り』がないことで支障が生じても困らないように備えます。



互助を基盤とした地域福祉による保証機能。



様々な生活支援、入院・入所の支援、死後事務等も基本的には当事者が主体となって行います。

■ つながるファイルを書く会・語る会



参加者(のべ人数)

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
8人	9人	4人	8人	6人	4人	7人	4人	6人	4人

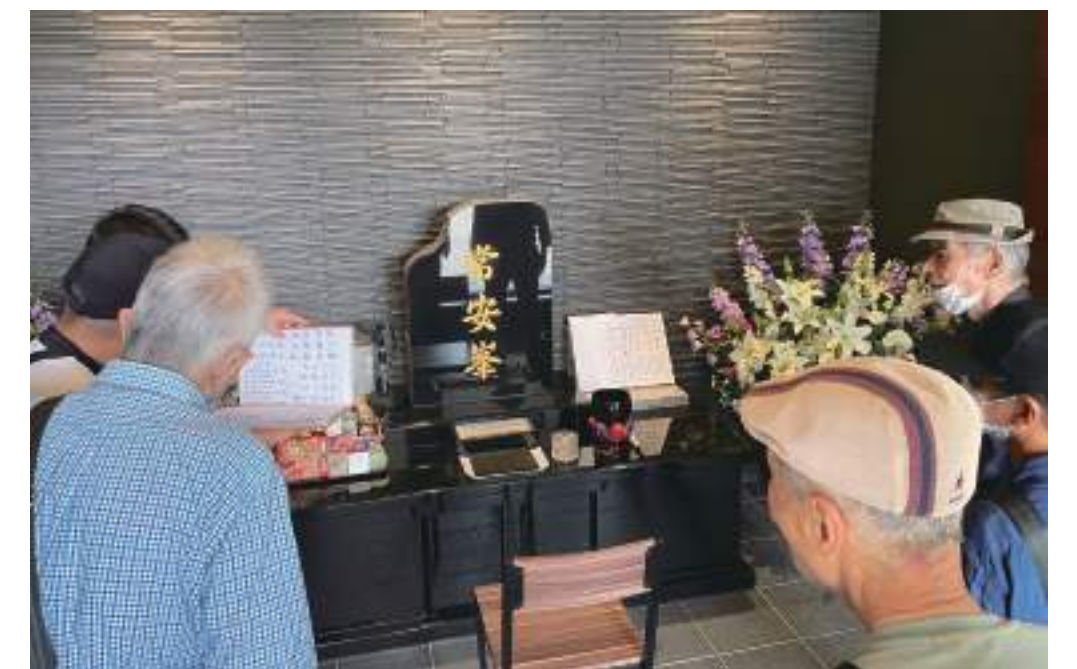


人生の最期にどうありたいか。
自分にとって何が大切なものかを
自覚することができる「もしばな
ゲーム」。

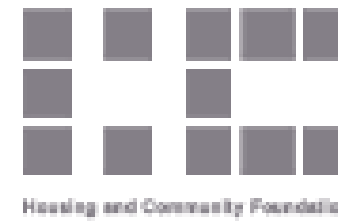
入院や死亡といった身寄りがないために
困難に陥りがちな事態に備える「つ
ながるファイル」の作成する場と終末
期医療について語り合いました。

■ つながるあんしん事業参加者の集い

つながるあんしん事業の参加者と希望される
方を対象に、常安峯納骨堂の見学会を開催しま
した。1回目は7月18日に、2回目は10月3日に。
先に眠られている方へ手を合わせてから、施設
内を見学しました。
初めて来られる方は、桜島を望む雄大な風景に
驚かれていました。



【参加案内チラシ】



一般財団法人
ハウジングアンドコミュニティ財団
Housing and Community Foundation



当事者のつながりで 孤独死ゼロを目指す活動



■ 概要

当事者のつながりで孤独死ゼロを目指す活動

当法人は居住支援法人として居住困難に陥った方々に対する住宅の確保の支援(入居支援)を行うとともに入居後の継続的な支援(居住生活支援)を行っています。居住生活支援においては、居住困難に陥った経験がある当事者(以下、「当事者」)どうしのつながり作りに特に注力し、当事者自身が活躍する「当事者主体の居住支援」に取り組んでおり、当事者間での入退院支援、買物支援等の個別具体的な支えあいが様々に巻き起こっており、当法人はこうした支えあいを後方から支援しています。さらに、こうした当事者自身のコミュニティの力を活かして孤独死ゼロを目指す活動に挑もうとしています。

活動内容

①見守りあいミーティング ②見守りあい活動 ③つながろう日置(日置市)

①見守りあいミーティング

月 2回、第1火曜日・第3火曜日にピアサポーターによる見守りあいミーティングを合計24回行いました。ここではその月の訪問のスケジュールを確認したり、前月の訪問の際、ポストの郵便物が溜まっていたり、様子がおかしい利用者がいなかったかなどを共有しました。必要があればアウトリーチのタイミング以外での個別訪問を行いました。



ミーティング議事録より一部抜粋

甲突地区(4月24日)(寺尾・松原)

- 福山さん:玄関拒否
- 清さん:玄関前で話ができた。病院4つ通っている。清潔度5。
- 鎌田さん:玄関前で話ができた。酒入っていた。清潔度2。

城西地区(5月13日)(寺尾・花岡)

- 石岡さん:お金に困っていた。ボートが大好き。更新面談は来週芝田が対応
- 館田さん:カテーテル手術の直後だった。右手麻痺、部屋がたばこ臭かった。
- 反田さん:週1のリハビリで先生と話すのが楽しみ。家でYoutube見てる。
- 平田さん:H22~やどかり利用。過去の話をしていろいろしてくれた。電話がかかってくるだけでフラッシュバック。同じ人間で対応したほうがよいであろう。



【ミーティングの様子】

②見守りあい活動

■ICT Hello Lightの導入促進

安 否確認LINEグループでは、カバーしきれない、スマホを使えない高齢の方をメインに見守り電気「Hello Light」の設置の促進をアウトリーチの際に声かけ活動を行いました。現在、7名の部屋に設置済みです。合わせてモーションセンサーも3名の部屋に設置しました。つながりで孤独死を防ぐ「孤独死ゼロアクション」と合わせて孤独死ゼロを目指します。



【管理画面】

【ヒトコエの画面】

■住環境改善

当 事者が多く住むマンションでの騒音問題(玄関ドアの開け閉めの音)に取り組むべく、ミーティング参加メンバーだけではなくそのマンションの住民も巻き込んでチラシの配布と声かけを行いました。また、ドアの開け閉めだけではなくマンション設備の異音に対しても、聞き取り調査のために訪問をし、管理会社、オーナーへ連絡しました。



【自身が住んでいるマンションへチラシを配布】

■地域貢献活動

ミ ーティングや、居場所サロンで使用させていただいている、活動拠点の一つとなっているリーベンパレス唐湊。その周辺と当事者が多く住むマンション共用部のゴミ拾い活動を実施しました。ゴミが散乱しているとクレームのあったところでは、郵便ポストから溢れて風に

飛ばされて散らかってしまっていたので参加メンバーで片付けました。こういった活動から、やどかり利用者ではない近隣の方と挨拶を交わすようになり、地域とのつながりができるようになると考えます。



③つながろう日置

2022年に起きた孤独死を機に日置市役所・日置市社会福祉協議会・民間事業者等と協働で「孤独死ゼロアクション」を推進すべく活動しています。日々のくらしや病気についての相談や、6月26日開催のつながろう日置の会合への参加を促すべく、日置市内にお住まいの13名の方へのアウトリーチによる訪問活動を実施しました。

◆ 30代 女性〈精神障がい者〉〈生活保護受給者〉

更新手続きのため、支援者・日置市福祉課生活支援係の岡田氏と訪問する。精神的不安定さのため、起きていることが辛いとのこと、布団に寝たまま話をするが、次第に表情が明るくなり、体を起こして冗談を言ったりしていた。岡田氏との関係も良好。精神的な不安が強い時は薬を多く飲みすぎたり、頻回に飲んでしまうことがあるとのこと。日置市の健康管理支援員や坂之上病院MSWに相談している。孤独死ゼロアクションについて説明すると真剣に聞いてくれたが、不安定さゆえ、会合参加は約束できないとのこと。事前に連絡をくれたら訪問には応じたいと話す。食欲があまりなく自炊もほとんどしないが、パートナーがいる時には作って食べることもあるそう。部屋はゴミが溜まっている。家事が苦手と話す。

◆ 30代 男性〈精神障がい者〉〈生活保護受給者〉

玄関に出てきてくれた。やどかりの催告書を預かる。6/26の会合には天気が良ければ行きたいとのこと。長く風呂に入っていない様子で、ひげが伸び、フケが多い。「きれいにしておいたりしないといけないんだけどね」と自話。東市来の歯医者には時々通っている様子。CWは月1回訪問してくださるとのこと。

◆ 70代 男性〈高齢者〉〈生活保護受給者〉

事前に孤独死ゼロアクションのチラシを送付してあるが、読んでいない様子。先ほどまでタクシーでお金をおろしに行っていたとのこと、疲れているのか玄関まで出て来るのがやっと。体調が思わしくないので会合には出られないとのこと。

◆ 70代 男性〈高齢者〉〈生活保護受給者〉

訪問を快く受け入れてくださるのはありがたいのだが、お菓子やコーヒーなどたくさん準備されるので申し訳ない。「今度は食事をしに来てください」と言われ、距離感が難しい。孤独死ゼロアクションへの賛同はされないが、会合でいろんな人と会えるのは楽しみとのこと、参加希望される。



■ 6月26日

〈場所〉:伊集院地区公民館

〈参加者〉:利用者5名／関連機関・施設職員5名
やどかり職員2名 計12名

①つながろう日置の開催目的について

- ・参加者同士の交流・つながり作りの大切さの説明をしました。
- ・孤独死ゼロアクションの理解・賛同・参加を呼びかけました。

②孤独死ゼロアクションについて

- ・新しくなったLINEオープンチャットの説明をしました。
- ・見守りLINEグループの説明をしました。

③グループワーク

- ・3グループに分かれて意見交換やフリートークをしました。

■ 8月1日

〈場所〉:伊集院地区公民館

〈参加者〉:利用者6名／関連機関・施設職員3名
ピアサポーター2名／やどかり職員2名 計13名

①つながろう日置の開催目的について

- ・参加者同士の交流・つながり作りの大切さの説明をしました。
- ・孤独死ゼロアクションの理解・賛同・参加を呼びかけました。

②孤独死ゼロアクションについて

- ・当事者でもあるピアサポーターから、安否確認LINEグループの説明をした後、実際に起きた駆け付け事例を話すことで、よりリアルな現場の状況を認識いただきました。アンケートをとり、実際にグループに参加いただけるかどうか、日置市においてどのような課題があるかなどを伺いました。

③グループワーク

- ・ピアサポーター2名の話をもとに、孤独死をなくすために日置市には何が必要か、ということについて2グループに分かれて話し合ってもらいました。参加者は少なかったのですが、それぞれの立場や置かれた環境などの違いから、いろいろな意見が聞かれ、アンケートの助けもあり、具体的な話し合い・意見交換ができました。

■『身寄り』がない人の座談会＆相談会

日置市に住まう一般の方とも交流を深めるべく、2月と3月に2度開催しました。それぞれの開催1週間～10日前あたりにピアサポーターによるポスティングを実施しました。土地勘もなく、家族構成等もわからないままでしたので、2月の開催日には一般の方は集まりませんでした。参加いただけた市議会議員の方にアドバイスをいただき、3月は公民館の入り口にチラシを貼っていただき、日置市役所福祉課にもチラシを設置していただきました。結果、3月22日に実施した際には6名の方にお越しいただきました。



【ポスティングしたチラシ】



〈場 所〉妙円寺公民館
 〈参加者〉日置市役所職員2名／市議会議員1名／
 一般社団法人代表1名／一般2名／
 やどかり職員2名／ピアサポーター3名
 計11名

ピアサポーターによる鹿児島市内でのツナガル活動(安否確認やアウトリーチ、居場所サロンの運営など)の実施事例の説明を行い、その後は少人数のため、フリートーク形式での意見交換を行いました。

日置市は高齢者の単身世帯が4,400世帯あり、今後さらに「身寄り」問題が深刻になってくると思われます。よく相談を受けるのは身寄りがあっても金銭的に葬儀があげられない、遺骨の引き取り手がない、入院時の保証人もいないとのことでした。また、移動手段がない問題もあげられていました。

もっと人数を集めて活動を広めていきたいことから、エリアの選定についてのアドバイスをいただきました。開催した妙円寺地区よりも、古くから自治会などがすでにある吹上地区・日吉地区などが良いかもしれないとの意見をいただきました。

特定非営利活動に係る事業会計収支計算書
自2024年4月1日至2025年3月31日

特定非営利活動法人やどかりプラス

科目		金額		
I 経常収入の部	1 会費収入			
	令和6年度正会員(46名 4団体)	251,000		
	令和6年度賛助会費(15名 2団体)	46,000		
			297,000	
2 事業収入				
	地域ふくし連帯保証事業(新規 名、更新 名)	4,940,554		
	助成金等収入(連帯保証事業)	6,676,169		
	助成金等収入(WAM)	6,664,000		
	助成金等収入(赤い羽根)	2,728,934		
	助成金等収入(ハウジングコミュニティー)	1,043,565		
	助成金等収入(みんなが安心環境整備)	1,653,301		
	助成金等収入(丸紅基金)	1,520,000		
	つながる安心事業収入	1,200,600		
	受託事業収益	294,162		
	雑収入(連帯保証事業)	3,734,107		
	審査事務手数料	65,000		
	出向負担金収入	527,312		
	雑収入(共通)		31,047,704	
3 寄付収入				
	寄付金	691,302	691,302	
経常収入合計				32,036,006
II 経常支出の部	1 事業費			
	1)			
	住まい確保にかかる支援事業			
	地域ふくし連帯保証事業	10,857,352		
	WAM	6,664,504		
	赤い羽根	2,754,115		
	ハウジングコミュニティー	1,043,565		
	みんなが安心環境整備	1,653,301		
	つながる安心事業	7,430		
			22,980,267	
				22,980,267
1 管理費				
	福利厚生費	236		
	研修費	1,000		
	広告宣伝費	220,000		
	交際費	4,092		
	通信費	416,141		
	消耗品費	69,426		
	事務局費	411,595		
	水道光熱費	212,297		
	諸会費	51,000		
	支払手数料	100,501		
	リース料	800,864		
	保険料	167,924		
	支払報酬	1,190,123		
	地代家賃	1,619,200		
	租税公課	224,750		
	車両購入費	1,570,000		
	雑費	114,034		
			7,173,183	7,173,183
経常支出合計				30,153,450
III その他収入の部				
	受取利息		4,085	
その他収入合計				4,085
IV その他支出合計				
	支払利息		36,537	
その他支出合計				36,537
当期収支差額				1,850,104
法人税住民税及び事業税				71,000
前期繰越収支差額				9,752,267
次期繰越収支差額				11,531,371

活動計算書

2024年4月1日から2025年3月31日まで

科 目		特定非営利事業							法人合計
		住まい確保にかかわる支援事業							
		地域ふくみ進育保証事業	WAM	赤い羽根	ハウジングコミュニティ	みんなが安心環境整備	つながるあんしん事業	共通	
Ⅰ 経常収益	1 受取会費	個人正会員受取会費						166,000	166,000
		団体正会員受取会費						85,000	85,000
		個人賛助会員受取会費						26,000	26,000
		団体賛助会員受取会費						20,000	20,000
	2 受取寄付金	受取寄付金						691,302	691,302
	3 受取助成金等	居住支援法人サポート補助金	2,030,000					1,520,000	3,550,000
		居住支援法人サポートセンター	4,462,124						4,462,124
		福祉医療機構		6,664,000					6,664,000
		赤い羽根			2,728,934				2,728,934
		ハウジングコミュニティ				1,043,565			1,043,565
		安心すまいサポートセンター					1,653,301		1,653,301
		その他	184,045						184,045
	4 事業収益	住まい確保新規更新	4,940,554						4,940,554
		つながる安心事業収入					1,200,600		1,200,600
		審査事務手数料	65,000						65,000
	出向負担金収入	527,312						527,312	
	受託事業収益	294,162						294,162	
5 その他の収益	雑収入	3,734,107						3,734,107	
								0	
経常収益計		16,237,304	6,664,000	2,728,934	1,043,565	1,653,301	1,200,600	2,508,302	32,036,006
Ⅱ 経常費用	1 事業費								
	(1) 人件費	給料手当	7,323,847	3,868,262	2,057,181	573,285	853,301		14,675,876
		人件費計	7,323,847	3,868,262	2,057,181	573,285	853,301	0	14,675,876
	(2) その他の経費	会議費				91,920			91,920
		旅費交通費	132,051	235,520	55,095	116,930	6,630		546,226
		通信費		128,276	3,276				131,552
		消耗品費	22,666	63,788	110,140				196,594
		光熱水費	5,416	228,648					234,064
		撤去委託料	131,830						131,830
		滞納金立替	1,569,830						1,569,830
		保険料		23,900					23,900
		原状回復費	1,005,221						1,005,221
		謝金	548,500	482,100		261,430			1,292,030
		借料損料	10,020	42,180	409,000		800		462,000
		地代家賃		1,255,200					1,255,200
	印刷製本費	20	28,815	113,428				142,263	
	委託費	104,580	229,000		800,000			1,133,580	
	支払・振込手数料			5,995				5,995	
	雑費・雑役務費	3,371	78,815					82,186	
	その他費用計	3,533,505	2,796,242	696,934	470,280	800,000	7,430	8,304,391	
事業費計		10,857,352	6,664,504	2,754,115	1,043,565	1,653,301	7,430	0	22,980,267
Ⅲ 管理費	2 管理費								
	(1) 人件費								
		給料手当							0
		人件費計	0	0	0	0	0	0	0
	(2) その他の経費								
		福利厚生費	236						236
		研修費	1,000						1,000
		交際費	4,092						4,092
		通信費	416,141						416,141
		消耗品費	69,426						69,426
		事務局費	411,595						411,595
		水道光熱費	212,297						212,297
		諸会費	51,000						51,000
		支払手数料	81,383				19,118		100,501
		リース料	800,864						800,864
	保険料	167,924						167,924	
	支払報酬	1,190,123						1,190,123	
	地代家賃	1,619,200						1,619,200	
	租税公課	224,750						224,750	
	広告宣伝費	220,000						220,000	
	車両購入費						1,570,000	1,570,000	
	雑費	58,098					55,936	114,034	
	その他費用計	5,528,129	0	0	0	0	19,118	1,625,936	7,173,183
管理費計		5,528,129	0	0	0	0	19,118	1,625,936	7,173,183
経常費用計		16,385,481	6,664,504	2,754,115	1,043,565	1,653,301	26,548	1,625,936	30,153,450
当期経常増減額		-148,177	-504	-25,181	0	0	1,174,052	882,366	1,882,556
Ⅳ 経常外収益	経常外収益								
	受取利息	3,290						795	4,085
経常外収益計		3,290	0	0	0	0	0	795	4,085
Ⅳ 経常外費用	経常外費用								
	支払利息	36,537							36,537
経常外費用計		36,537	0	0	0	0	0	0	36,537
税引前経常正味財産増減額		-181,424	-504	-25,181	0	0	1,174,052	883,161	1,850,104
法人税、住民税及び市県民		71,000							71,000
当期正味財産増減額		-252,424	-504	-25,181	0	0	1,174,052	883,161	1,779,104
前期繰越正味財産額									9,752,267
次期繰越正味財産額									11,531,371

特定非営利活動に係る事業会計財産目録

2025年3月31日現在

特定非営利活動法人やどかりプラス

科目	金額(円)		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金(連帯保証事業)	111,434		
現金(WAM)	7,382		
現金(赤い羽根)	90,000		
現金(HC)	241,264		
鹿児島銀行天神馬場支店1051772	1,520,949		
鹿児島銀行荒田支店3045356	7,129,198		
鹿児島銀行鴨池支店3440978	292,758		
鹿児島銀行鴨池支店3430656	691,005		
鹿児島銀行西田支店3018291	1,953,437		
郵便局01790-1-66996	109,000		
鹿児島銀行真砂支店3050433	1,211,927		
鹿児島銀行唐湊支店3050433	335,985		
鹿児島銀行宇宿支店3062555	642,238		
鹿児島銀行高見馬場支店3081811	68,318		
鹿児島銀行本店3219047	448,962		
利用料未収金	980,000		
求償権未収金	2,109,682		
つながる事業未収金	13,600		
預り敷金未収金	791,730		
立替金(連帯保証事業)	9,000		
未収入金(赤い羽根)	838,934		
未収入金(ハウジングコミュニティー)	479,310		
未収入金(WAM)	318,550		
流動資産合計		20,394,663	
2 固定資産			
固定資産合計		0	
資産合計			20,394,663
II 負債の部			
1 流動負債			
短期借入金(鹿児島銀行)	3,000,000		
未払金(3月分給与)	987,825		
未払金(WAM経費)	642,168		
預り敷金	3,897,400		
預り金(くらしサポートウィズ)	335,899		
流動負債合計		8,863,292	
2 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			8,863,292
正味財産			11,531,371
負債正味財産合計			20,394,663

上記のとおり相違ありません。

2025年3月31日

鹿児島市下荒田4-30-5プレジデント下荒田403号

特定非営利活動法人やどかりプラス

理事長 芝田 淳

特定非営利活動に係る事業の貸借対照表
2025年3月31日

特定非営利活動法人やどかりプラス

科 目	金 額 (円)		科 目	金 額 (円)	
資 産 の 部			負 債 の 部		
流動資産			流動負債		
現金	450,080		短期借入金	3,000,000	
普通預金	14,403,777		未払金	1,629,993	
未収金	3,895,012		預り敷金	3,897,400	
立替金	9,000		預り金	335,899	
未収入金	1,636,794				
流動資産合計		20,394,663	流動負債合計		8,863,292
固定資産			固定負債		
固定資産合計			固定負債合計		
			正味財産の部		
			前期繰越正味財産		
			当期正味財産増減額		
			正味財産合計		11,531,371
資産の部合計		20,394,663	負債正味財産の部合計		20,394,663

監 査 報 告 書

2025 年 6 月 13 日、14 時 00 分から 16 時 00 分まで、下荒田事務所において、理事長より提出された 2025 年度収支決算書・財産目録及び帳簿等に基づき、決算の監査を実施した。

監査の結果、2025 年度収支決算書のとおりであり、適正に処理されていると認めた。

2025 年 6 月 13 日

特定非営利活動法人やどかりプラス

監 事

田中孝史

監 査 報 告 書

2025 年 6 月 16 日、15 時 00 分から 17 時 00 分まで、下荒田事務所において、理事長より提出された 2025 年度収支決算書・財産目録及び帳簿等に基づき、決算の監査を実施した。

監査の結果、2025 年度収支決算書のとおりであり、適正に処理されていると認めた。

2025 年 6 月 16 日

特定非営利活動法人やどかりプラス

監 事 有馬 利洋

2025 年度事業計画書

(自 2025 年 4 月 1 日至 2026 年 3 月 31 日)

特定非営利活動法人やどかりプラス

1 事業実施の方針

2024 年 8 月 13 日、特定非営利活動法人やどかりサポート鹿児島と特定非営利活動法人つながる鹿児島が合併し、当法人（特定非営利活動法人やどかりプラス）が誕生した。

合併以降、当法人は、「住まいとつながりをすべての人に」をビジョンとして掲げ、居住支援と『身寄り』問題に取り組む NPO 法人として活動している。

具体的には、従前から NPO 法人やどかりサポート鹿児島において行われてきた

- ①シェルター事業
- ②地域ふくし連帯保証
- ③鹿児島県居住支援協議会の相談窓口
- ④当事者主体の居住支援
- ⑤つながるあんしん事業

及び NPO 法人つながる鹿児島において行われてきた

- ⑥互助会の設立・運営支援
 - ⑦『身寄り』問題に関するガイドライン・マニュアルづくりの推進
- を実施しているところであるが、2025 年 1 月 22 日に設立された
- ⑧鹿児島市居住支援協議会の事務局

を鹿児島市建設局建築部住宅課と共同で担うこととなったため、より強い責任感を持って地域の居住支援に取り組んでいきたいと考えているところである。

さらに

- ⑨障害福祉サービス事業
- に挑戦し、2023 年度から開始している

- ⑩『孤独死ゼロアクション』
- の拡大・発展にも取り組む。

これらの課題に関する普及啓発活動も継続する。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容等
1 居住支援事業	1 シェルター事業 住居を失い「その日の屋根」を必要とする方に対して一時的な起居の場所であり新たな生活の基礎を築くための拠点となるシェルターを提供する。

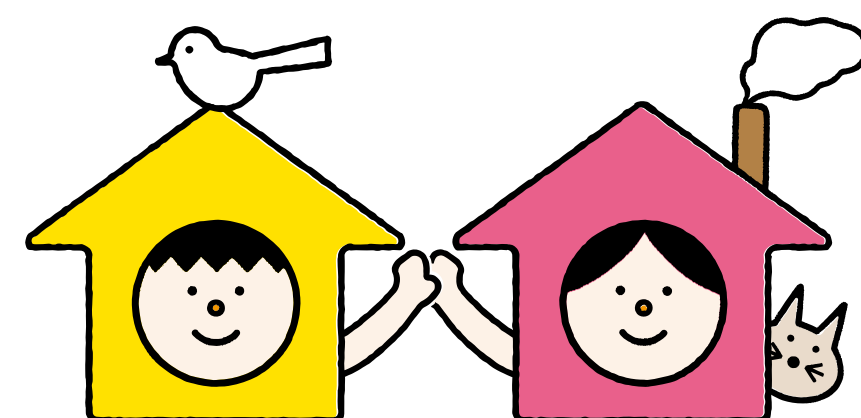
	実施時期 通年 実施場所 鹿児島市内 対象者 住居を失った人 30 名
	2 地域ふくし連帯保証 保証人が確保できないがために住居の確保に困難を抱えている方に対して、地域福祉の担い手と連携し、支援者を置くことを前提として、住居の賃貸借契約における保証を提供する。 実施時期 通年 実施場所 鹿児島県全域 対象者 保証人が確保できないがために住居の確保に困難を抱えている人 新規 50 名，継続 450 名
	3 鹿児島県居住支援協議会の相談窓口 引き続き、鹿児島県居住支援協議会の相談窓口を担当し、居住に関する相談に応じる。 実施時期 通年 実施場所 鹿児島県全域 対象者 住宅確保要配慮者 90 人
	3 鹿児島市居住支援協議会事務局 2025 年 1 月 22 日に設立された居住支援協議会の事務局を鹿児島市建設局建築部住宅課と共同で担い、鹿児島市における居住支援体制・ネットワークの充実・発展に取り組むとともに、相談窓口を担当する。 実施時期 通年 実施場所 鹿児島市 対象者 住宅確保要配慮者 210 人
	4 当事者主体の居住支援 地域ふくし連帯保証の利用者を中心に、「互助する暮らし方」である「やどかりライフ」を提案し、「やどかりライフ」に参加する当事者どうしが支えあい助けあうことを通じて当事者自身が主体となる居住支援を展開する。 実施時期 通年 実施場所 主に鹿児島市内 対象者 やどかりライフ参加者 200 名
	5 つながるあんしん事業 当事者が支えあい助けあい活動を行うこと及び当事者が『身寄り』がないことで陥りがちな問題に対する備えを行うことを前提として、かつ当法人が契約に基づく支援を提供する。 実施時期 通年 実施場所 主に鹿児島市内 対象者 30 名

	6 孤独死ゼロアクション 居住支援の現場で問題でありかつ『身寄り』問題でもある孤独死を当事者自身の力でなくす・減らすことを目指す活動を行う。昨年度に引き続き、主に地域ふくし連帯保証参加者を中心に活動するが、日置市においても活動をひろげていく。（「つながろう日置」を継続する。） 実施時期 通年 実施場所 主に鹿児島市内 対象者 孤独死の恐れがある人 200 名
2 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障害福祉サービス事業	1 就労継続支援事業所の運営 2024 年度、共同生活援助（グループホーム）を開設し運営する予定であったが、理事・会員・関係者との協議の結果、共同生活援助（グループホーム）よりも就労継続支援事業所の運営を優先することとなり、現在、社会福祉法人南恵会とともに就労継続支援事業所の運営を行っている。（法的な主体は社会福祉法人南恵会であるが、同法人との間で地域福祉の向上のために協働する旨の協定を交わしている。） 2025 年度もこれを継続する。 実施時期 通年 実施場所 鹿児島市内 対象者 障害者 20 名
3 身寄り問題の解決に関する事業	1 互助会の設立・運営支援 『身寄り』問題の解決のためには、『身寄り』がない当事者の主体的行動が重要であるとの認識に立ち、『身寄り』がない当事者どうしが支えあい助けあう互助会の設立及び運営を支援する。 実施時期 通年 実施場所 主に鹿児島市内 対象者 150 名 2 ガイドライン・マニュアルづくりの推進 『身寄り』問題の解決のためには、支援者及び事業者が『身寄り』がない人の支援や受け入れについて主体的に取り組む必要があるとの認識に立ち、『身寄り』のない人の支援に関する地域ガイドライン及び組織マニュアルの作成を推進する。 具体的には、2024 年から伊佐市及びさつま町における地域ガイドライン作りに対するアドバイスを行っているところであるが、これをさらに拡大していく。 実施時期 通年 実施場所 主に鹿児島県内 対象者 3 乃至 5 市町村自治体

4 居住支援， 障害福祉，身 寄り問題に関 する普及啓発 事業	鹿児島，障害福祉，『身寄り』問題に関する市民，支援者，事業者， 行政等の理解を深め，それぞれの課題の解決に資するため，講演等 の普及啓発を行う。 実施時期 通年 実施場所 全国 対象者 1,500 名（50 名×30 回を想定）
---	---

(2) その他の事業

事業名	事業内容等
1 出版事業	書籍等の出版をする。 実施なし。
2 物品の販売 事業	物品等の販売をする。 実施なし。
3 福祉に関す る研究事業	福祉に関する研究を行う。 実施なし。



住まいとつながりをすべての人に
NPO 法人 やどかりプラス⁺

2025年度 事業計画 補足資料

Activity Plan 2025

June, 2025



住まいとつながりを すべての人に。



① 地域ふくし連帯保証

保証人が確保できないがために住居の確保に困難を抱えている方に対して、地域福祉の担い手と連携し、支援者を置くことを前提として、住居の賃貸借契約における保証を提供する。

② 鹿児島県居住支援協議会の相談窓口

引き続き、鹿児島県居住支援協議会の相談窓口を担当し、居住に関する相談に応じる。

③ 鹿児島市居住支援協議会事務局

令和7年1月22日に設立された居住支援居住支援協議会の事務局を鹿児島市建設局建築部住宅課と共同で担い、鹿児島市における居住支援体制・ネットワークの充実・発展に取り組むとともに、相談窓口を担当する。



2025年度 事業計画



④ ～シェルターから葬送まで～ つながり続けるコミュニティ創生事業

シェルター支援・入居支援・入居中支援・死亡を含む退去支援まで一貫してつながり続ける居住支援を身寄り問題の解決も射程としつつ『コミュニティのしごと』として展開する事業。

無料シェルターの運営

『コミュニティのしごと』による支援

シェルターから葬送まで
つながり続けるコミュニティによる支援

つながり続けるコミュニティによる
地域課題の解決に関する視察

シンポジウムの開催



居場所を失った人への
緊急活動応援助成

⑤ つながる・つなぐ当事者の力で 当事者の孤立を防ぐ居住支援事業

当事者主体のアウトリーチ活動や居場所サロンの運営などを継続して行う。さらに、それらを実施する当事者の「つながるスキル」・「つなぐスキル」を向上させるために、講座を開催する。

例えば、地域包括支援センター職員や障害者相談支援専門員の講義を受け、意見交換をしたり、地域の様々な居場所活動について学んだりするなど。幅広い視点でツナガル活動を充実したものにしていく。

当事者によるアウトリーチ事業

当事者主体による居場所「CoCoDe」の運営

「つながる・つなぐミーティング」実施

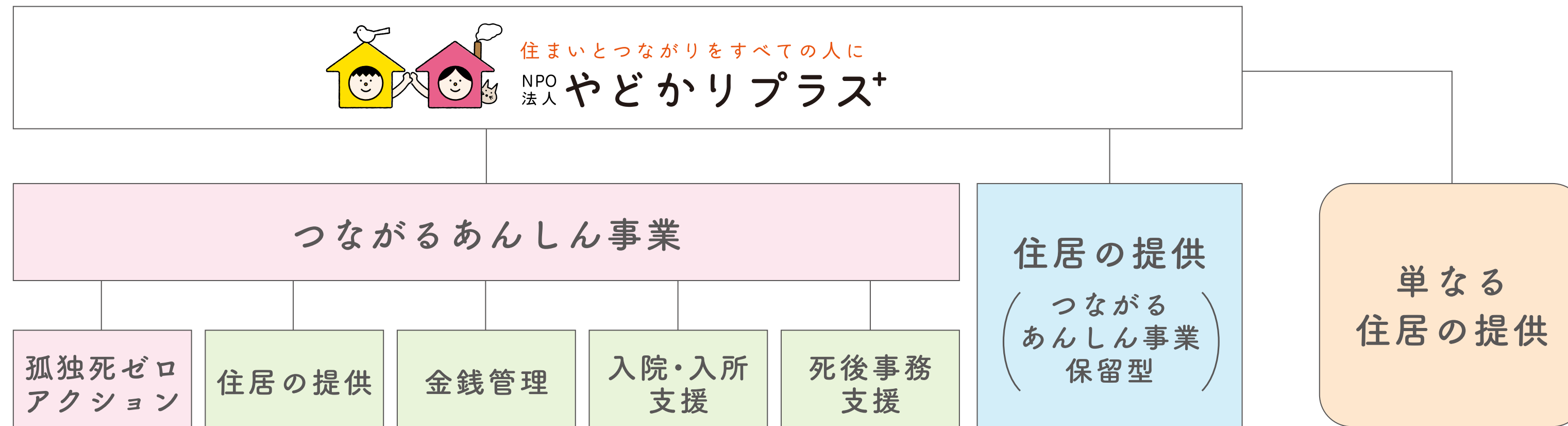
「つながる・つなぐスキルアップ講座」の実施



2025年度 事業計画

参加型事業への転換

NPO法人やどかりプラス単体での事業は、
原則としてつながるあんしん事業への参加を前提とする。



◆ つながるあんしん事業への参加

- ① なかまどうし支えあい助けあう暮らしを行うこと(月1回以上の参加を義務とする)
- ② 参加申込金と月会費を支払うこと
- ③ 孤独死ゼロアクションに取り組むこと
- ④ 住居の提供、金銭管理、入院・入所支援、死後事務支援は、つながるあんしん事業のオプションに位置付けられる

◆ 孤独死ゼロアクション

- ① LINEグループ等を用いた見守りあい
- ② ICTによる安否確認
- ③ 孤訪問や電話による見守り

◆ つながるあんしん事業保留型

- ① ICTによる安否確認
- ② 1ヶ月に1会の見守り
- ③ 福祉へのつなぎを提供する
- ④ 半年ごとの定期借家契約とする
- ⑤ 別途支援費が必要

不動産事業の拡大

- ① サブリース事業の拡張
- ② 居住サポート住宅
- ③ 既存住宅の居住サポート住宅化
- ④ 不動産特定共同事業
- ⑤ 県営住宅の目的外使用

障害者福祉サービス

- ① 南恵会の就労継続支援B型と連携
- ② やどかりプラス独自のB型
- ③ グループホーム
- ④ 不動産特定共同事業
- ⑤ 障害福祉と居住支援法人の連携

資産の総額の確認に関する件

2025 年 3 月 31 日現在の本法人の資産の総額は、金 11,531,371 円である旨確認する。

〔提案理由〕

資産の総額については、毎事業年度終了後決算に基づいて総会での確認が必要であるため。

理事長	芝田 淳
副理事長	河原 晶子
副理事長	鶴田 啓洋
理 事	新川 昇一郎
理 事	須藤 奈津子
理 事	竹中 寛子
理 事	西田 鉄心

理 事	廣野 拓
理 事	三角 悦久
理 事	溝延 祐樹
理 事	山下 泰彦
監 事	有馬 利洋
監 事	田中 孝史

理事長	芝田 淳
副理事長	河原 晶子
副理事長	鶴田 啓洋
理事	新川 昇一郎
理事	須藤 奈津子
理事	竹中 寛子
理事	西田 鉄心

理事	廣野 拓
理事	溝延 祐樹
理事	山下 泰彦
理事	近藤 和敬
監事	有馬 利洋
監事	田中 孝史



利用決定委員

◆ 第1合議体

委員長	江之口 博行
委員	芝田 淳
委員	佐澤 佳史朗
委員	有馬 利洋

◆ 第2合議体

委員長	上江川 直子
委員	定岡 雅文
委員	溝内 義剛
委員	山下 泰彦

◆ 第3合議体

委員長	福留 弘
委員	鶴田 啓洋
委員	茶屋道 拓哉
委員	森迫 直子

◆ 第4合議体

委員長	林 千代子
委員	竹中 寛子
委員	諏訪 洋一
委員	染河 敏幸

◆ 第5合議体

委員長	堀之内 洋一
委員	
委員	新川 昇一郎
委員	坂東島 梨香

◆ 第6合議体

委員長	坂口 松平
委員	木下 精子
委員	中窪 ゆたか
委員	西田 鉄心